

小牧市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況 の点検及び評価の結果に関する報告書

第1 点検及び評価の対象及び実施日

対 象 令和元年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び
執行の状況

実施日 令和2年7月14日

第2 点検及び評価の方法

教育委員会事務局において、令和元年度教育委員会基本方針に掲げた重点施策について、令和元年度実績をまとめた点検評価シートを作成した。当該点検評価シートを外部の学識経験者等からなる評価委員会に諮り、教育委員会にて議決した。

第3 点検及び評価の結果

点検評価シート（令和元年度実績）に記載

令和元年度の重点施策

基本目標1 時代を切り拓く力を育む「学び」の充実

- ☞ 人と関わり合いながら学ぶ「学び合う学び」を進め、様々な課題に関心を持って主体的に学ぶことで、確かな学力を育みます。
- ☞ 理数教育や国際教育などを充実し、未来にはばたく人材を育成するとともに、特別支援教育や外国人児童生徒への教育を推進します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	「学び合う学び」を支える教員研修の実施（施策1）	担当課
		学校教育課
内 容	「学び合う学び」を土台に据えた学級・授業づくりに役立つ実技講座や児童・生徒理解、指導にかかわる研修講座の充実を図ります。	
達 成 状 況	・各小中学校において、学級・授業づくりに活用できる知識や経験を学び合うため、教員の職務を超えた校内授業研修等を実施しました。 ・教育委員会において、「学び合う学び」を土台に据えた様々な実技講座や研修講座を企画・実施しました。令和元年度は、「学校と保護者のいい関係づくり」をテーマに、全教職員を対象に教育講演会を実施したほか、令和2年度から始まる小学校の英語及びプログラミング教育を見据えた研修講座も行いました。 ・経験年数の浅い教員が増加していることから、学級経営や学習評価を考える研修講座を新たに行いました。 ・教職員が参加しやすい夏季において、集中研修会を実施しました。 ◆令和元年度研修テーマ 保護者との信頼関係づくり、発達障害児支援の具体的な方法、英語教育研修、授業を創る（図工、書写、英語科、道徳）、授業での評価、外国人教育の理解、生徒指導講演会、保育と学校教育の連携、人間関係づくり実習、読み語り・教材づくり、子どもを育てる学級経営、JAXA連携宇宙科学を教育に生かそう、ICT研修（プログラミング学習、ソフト活用研修）、カウンセリング研修、道徳の教科化に向けて、思考力を鍛える（算数）、ケガの予防と応急処置について（養護）、危機管理研修、養護教諭研修、アナフィラキシーに対応するエピペン研修、内部統制研修、教職員メンタルヘルス、自殺予防教育	

点検評価シート（令和元年度実績）

◆主な研修の種類

研修項目	参加延べ人数		
	R1 年度	H30 年度	H29 年度
現職教育研修	929 人	902 人	895 人
新任・少経験・経験教員研修	387 人	446 人	332 人
校長・教頭・教務主任・校務主任等研修	578 人	575 人	580 人
専門研修（教育課題への対応）	582 人	587 人	863 人
専門研修（教職専門性の向上）	915 人	751 人	884 人
特別研修	402 人	464 人	506 人
教育講演会	689 人	715 人	712 人
中堅教員国内派遣研修	3 人	3 人	3 人

◆令和元年度中堅教員国内派遣研修

行き先：筑波大学附属小学校 他

テーマ：考え、議論する授業の具体を探る～道徳科の授業を通して～

期 間：令和元年 7 月 23 日、8 月 23 日・24 日

行き先：筑波大学附属中学校 他

テーマ：よく動き、よく考え、生き生きと運動を楽しむ生徒の育成をめざして

期 間：令和元年 9 月 17 日、11 月 30 日、令和 2 年 1 月 25 日

行き先：神戸市内 他

テーマ：主体的・対話的活動を通じた説明力の体得を目指して

期 間：令和元年 9 月 22 日・23 日、10 月 19 日・20 日

◆夏季研修

R1 年度		H30 年度		H29 年度	
講座	参加人数	講座	参加人数	講座	参加人数
28 回	1,497 人	31 回	1,620 人	39 回	1,880 人

◆教職員研修参加者アンケート

参加者のうち満足と回答した人の割合	R1 年度	H30 年度	H29 年度
	99.3%	99.5%	99.3%

点検評価シート（令和元年度実績）

課 題	・ I C T教育や英語、道徳など学習指導要領で改訂される分野の研修や、経験年数の浅い教員の力量向上のための研修を充実していく必要があります。 ・ 教職員研修の充実は必要ですが、多忙化解消の観点から授業や他の業務を考慮した研修計画が必要です。
今後の取組の方向性	・ 教職員の負担を考慮しながら研修内容を随時見直し、時代の要請、教職員のニーズに応じた研修を企画します。 ・ 新学習指導要領の実施に向けた評価や授業づくりについての研修、小学校でのプログラミング教育をはじめとする教育の I C T化に向けた研修などを企画します。 ・ 経験の少ない教員の増加が予想されていることから、児童生徒理解や教科の指導法等、校内研修を充実し、より具体的な事例を挙げた研修を企画します。 ・ 「学び合う学び」を進める教員の力量向上のための研修を企画します。
評価委員の意見等	・ 小牧市が 15 年以上にわたり取り組んでいる「学び合う学び」は、全国一斉に本年度の小学校から全面実施される改訂学習指導要領における基本理念である「主体的・対話的で深い学び」のさきがけであると高く評価できます。また、小牧市の各学校で展開されている校内研修（授業研究）や、教育委員会が主催する魅力的な研修プログラムは、校内また市内を単位とした教員同士の「学び合う学び」であり、「教員は学校で育つ」を基本理念とする国全体の教員研修（現職教育）の充実の施策を先導する取り組みであると高く評価できます。小学校英語やプログラミング教育などの新規拡充が求められる課題に対応しつつ、児童・生徒理解と魅力的な授業づくりを研修の中核に据えることにより、子どもたちが安心して学校で学び合える基盤づくりを今後も続けていただきたいと思います。授業研究・O J Tの一層の推進と、教師の働き方改革の中での研修・研究の時間的・精神的ゆとりの確保を小牧市全体で取り組んでいくことを期待したいです。特に、“ポストコロナ”、“ウィズコロナ”の中で、授業時数も研修時間も減少することが予想され効率的な学校運営が求められますが、それが子どもに対しては伝達型授業、教師に対しては伝達型研修に陥らないよう、より一層の工夫が必要です。これまでの小牧市の「学び合う学び」の実績をもとに、小牧市ならではの学びを全国に発信してほしいと思います。何よりも、小牧の子どもも保護者も、そして教師も含めて、「小牧の学校で学べてよかった」、「小牧の学校で働くことができてよかった」と実感できるよう、学校の取り組みを市としてバックアップして欲しいと考えます。

点検評価シート（令和元年度実績）

	・各学校での実践の充実の要となる教員資質向上のためには、自主研修、職務を通じたOJT、校内研修、教育委員会等による研修など様々な機会が求められますが、いずれにおいても研究活動の裏付けが必要です。それを担保するために優れた実践の指導資料や実践記録を蓄積し共有する仕組みを充実させることが大切です。 ・新型コロナウイルスの感染拡大により社会全体が大きく変貌し、「新たな日常」の構築に向かって着実な一步が期待される場所です。社会全体としては、経済の回復を目指して「自粛・自粛」という雰囲気から徐々に抜け出そうとしています。学校教育現場は、この状況下で今までと全く違った形で児童生徒（家庭）との関係をつなぎ止める必要に迫られました。今まで一定の成果を積み上げてきた指導はとりあえず「封印」ということにして、「一人ひとり」という原点に立ち返って走りながら考えることが求められる事態となっています。「ピンチの時こそチャンス到来」という観点に立ち、厳しい現実を乗り越えることから始めて新しい学校生活を模索していくことになります。教育行政と手を携えながら、この3か月間を無駄にするのではなく将来に向かって意味のある時間にすることが大切だと考えます。 ・新型コロナウイルスの感染予防のためのソーシャルディスタンスをとりながらの授業では、「学び合う学び」の形態がとりにくく、今年度については、状況が収まるまでは、顔を寄せ合い（対面し合い）、聴き話し合うグループ学習などの授業は難しいです。学習面での遅れをとり戻すことが必要ですが、あまり慌てずに、子どもたちの理解度をよく見ながら進めてほしいと思います。個々への対応がより必要になってきます。 ・グループ学習などにより、「密」な状況ができてしまうのは良くないと思いますが、短い時間であれば可能ではないかと思います。 ・本年度は、新型コロナウイルスの対応で多忙を極めていると思われます。研修実施の先送りなど、現場教員にとって無理のない計画実施を望みます。 ・現在でも、まだ、教職員の負担は大きいものであると感じています。ただ、児童生徒への指導等に関しては大変かと思いますが、今まで通りの力量向上をしてもらいたいと思います。 ・参加者アンケートの満足度が高すぎる点が気になります。もちろん高いことは素晴らしいことで、研修が非常に上手くいっていることの証左ですが、それだからこそ受講者視点の改善点や課題をあえて引き出す工夫も必要かと思います。
--	--

点検評価シート（令和元年度実績）

	【全体に対する意見】 ・学校教育においても、社会教育においても、予算が限られる中、児童生徒、保護者、地域、市民等に向け、的確にニーズを捉え、きめ細かな教育サービスが提供できていると評価します。 ・私の行政への願いは、「必要に応じた横断的な取り組み」です。果敢なる決断をお願いします。 ・新型コロナウイルスの影響で、様々な活動に制限が出ることは避けられないと思います。ＩＣＴの活用を拡充し、新しいコミュニケーションの形を構築する必要があると思います。無論、人と人との関わりは大切ですが、インターネットの利点を上手に活用していければと思います。
--	--

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	特色ある学校づくり推進事業の実施（施策2）	担当課
		学校教育課
内 容	コミュニティ・スクールを推進していく中で、各小中学校が創意工夫し、より一層地域の特性や人材を活かした特色ある教育活動を進めていきます。	
達 成 状 況	・「特色ある学校づくり事業」により、各学校の意欲的かつ主体的な取り組みを喚起し、学校がめざす児童・生徒像を地域と共有し、特色ある教育活動を展開しました。	
課 題	・地域との協力により行う伝統的な行事に見直しを加えながら、新たな取り組みであるコミュニティ・スクールと一体的に推進できる事業のあり方を検討する必要があります。	
今後の取組の方向性	・学校と地域が活動しやすい事業のあり方について引き続き検討していきます。	
評 価 委 員 の 意 見 等	・学校全体が落ち着いて教育活動に専念できることが、今は一番必要です。今年度については、新たな取り組みや学校の負担となる活動は控えるべきだと思います。地域からの応援はありがたいので、学校の現状や苦勞している点等の発信はしていくと良いと思います。 ・児童生徒が減少していく中で、地域との協力はとても重要なことだと思いますが、私の地域では高齢化も進み、なかなか活動がスムーズでないように見える部分もあります。引き続きの検討をお願いします。 ・教員の方々の負担が軽減し、子どもたちとより円滑なコミュニケーションがとれるよう地域が協力するということが望ましいと思います。かえって先生方の負担になるようなことは、決してあってはならないと思います。 ・学校と地域の連携が上手く取れるようになれば、先生方の負担になることはないと思います。ただ、今年度に関しては、新型コロナウイルスの影響により、どうしてもできないこともあると思いますので、できる限りのことで良いと思います。	

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	コミュニティ・スクールの推進（施策2）	担当課
		学校教育課
内 容	地域の特性を活かしたコミュニティ・スクールの推進していくため、他自治体の先進・優良事例を紹介するコミュニティ・スクール研修会を開催し、各小中学校の学校運営協議会の活動を支援します。	
達 成 状 況	- 平成29年12月に策定した小牧市モデルのコミュニティ・スクール制度方針に基づいて、平成30年度に全小中学校一斉にコミュニティ・スクールを導入し、各学校に学校運営協議会を設置しました。 - 学校運営協議会の構成員は、区長、PTA、教育後援会、学校地域コーディネーター、主任児童委員、有識者などが多く、その他には、小学校では地域協議会の役員の方が、中学校では青少年健全育成や保護司の方などが委員となりました。 - 令和元年度は、各学校運営協議会で、現在の学校の取り組みや今後の地域との協働などに関して意見交換を行いました。また、学校運営協議会と地域協議会の連携を目指していることから、市内11小学校区で設立された地域協議会の目的や組織、活動内容を取りまとめ、本市のコミュニティ・スクール推進ガイドライン（vol.3）に掲載し、各小中学校へ周知しました。	
課 題	- コミュニティ・スクールの取り組みを進めていくためには、保護者をはじめとする地域の方々の理解と協力が必要なため、この制度の周知方法を検討する必要があります。 - 活動を推進していくため、コミュニティ・スクールに関する研修会を開催する必要がありますが、講師が限られており、日程調整が難しい状況です。	
今後の取組 の 方 向 性	- 各学校の学校運営協議会において、趣旨や目的を説明するとともに、「目指す子どもの姿」や「目指す学校の姿」を話し合い、目標やビジョンの共有を一層図っていきます。 - 各学校は、より一層地域の理解と協力を得るため、PTAや区長、民生委員、地域の方々に学校運営協議会委員への就任を依頼します。 - 令和2年度は、各学校の担当者を対象としたコミュニティ・スクールに関する研修会を開催するため、早い時期から講師と日程調整を行い、各学校での活動を支援していきます。 - 各学校がコミュニティ・スクールの活動を円滑に進められるように、学校と地域が活動しやすい予算のあり方について検討を進め	

点検評価シート（令和元年度実績）

	ます。
評 価 委 員 の 意 見 等	・各学校では、学校運営協議会を通して、学校と地域の関係を深めていくための活動が着実に進んでいると評価できます。また、市としてもガイドラインを示すなど、適切に学校の支援がなされていると評価できます。今後も、より一層実質的なビジョンの共有を図り、地域の児童生徒の実態にもとづいた教育課題を「目指す子どもの姿」として具体化し、教科・教科外（特活・総合など）も含めた「カリキュラム・マネジメント」を活発にし、「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組んでいくことが期待されます。 ・コミュニティ・スクールの推進には、地域協議会の協力が必要不可欠だと思います。まだ地域協議会が設立されていない小学校区においては、設立に向けて積極的に働きかけることを希望します。 ・コミュニティ・スクールの推進に関連して、長年、地域コミュニティの中核的存在であった「スポーツ振興会」についても、地域協議会が設立されたことによる今後のあり方を検討する必要があると考えます。 ・学校運営協議会が学校運営を主導するような関係性づくりが必要です。 ・イベントやプロジェクトの評価や実施など、実質的な役割を委ねることを検討してほしいです。 ・導入に向けて保護者や地域の理解・協力を推進するために必要なことは、学校現場の諸課題を明確にしたうえで、コミュニティ・スクールの導入がそれらの諸課題解決のために必要であることを具体的に説明することだと考えます。そして、既存の地域コミュニティ推進組織との連携や協力、さらには関係組織の見直しも視野に入れて考えることも必要だと思います。 ・今年度については、慌てないで、学校の状況をよく把握し、無理のないように進めてください。 ・今年度は、例年通りの活動は厳しいと思います。来年度以降につながる活動として、少しでも今年度できることをしていければいいと思います。

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		小中学校における英語教育の推進（施策3）		担当課 学校教育課																																
内 容		学習指導要領の改訂に合わせ、外国人英語指導助手（ALT）の増員や独自カリキュラムの活用などを行い、小中学校の英語教育の充実を図ります。また、市民団体と協働して中学生英語スピーチコンテストを開催します。																																		
達 成 状 況		・平成30年度から令和元年度まで、新学習指導要領の移行措置期間として、小学3～6年生の外国語活動（英語）の授業時間を増やしました。また、ALTを小学校に1人増員するとともに、英語の専科教員（県費）1人が加配されました。 ・児童にとって本物の英語に触れる時間が増え、コミュニケーションの素地の醸成につながりました。 ・令和2年度以降のALTについて、契約形態を業務委託契約から労働者派遣契約に切り替えるとともに、ALTを2名増員することとし、指名型プロポーザルにより令和2・3年度の受注業者を選定しました。また、新学習指導要領による英語活動及び英語科の授業時間の増加に対応するため、令和2年度より、小学3年生から小学6年生について、木曜日に6時間目を加えることとしました。 ◆英語の時間数（年間） <table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>H30 年度</th><th>H29 年度</th></tr><tr><td>小学6年生</td><td>50 時間</td><td>50 時間</td><td>15 時間</td></tr><tr><td>小学5年生</td><td>50 時間</td><td>50 時間</td><td>15 時間</td></tr><tr><td>小学4年生</td><td>15 時間</td><td>15 時間</td><td>6 時間</td></tr><tr><td>小学3年生</td><td>15 時間</td><td>15 時間</td><td>6 時間</td></tr></table> ◆ALTの配置状況 <table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>H30 年度</th><th>H29 年度</th></tr><tr><td>中学校</td><td>3 人</td><td>3 人</td><td>3 人</td></tr><tr><td>小学校</td><td>7 人</td><td>7 人</td><td>6 人</td></tr></table>			項目	R1 年度	H30 年度	H29 年度	小学6年生	50 時間	50 時間	15 時間	小学5年生	50 時間	50 時間	15 時間	小学4年生	15 時間	15 時間	6 時間	小学3年生	15 時間	15 時間	6 時間	項目	R1 年度	H30 年度	H29 年度	中学校	3 人	3 人	3 人	小学校	7 人	7 人	6 人
項目	R1 年度	H30 年度	H29 年度																																	
小学6年生	50 時間	50 時間	15 時間																																	
小学5年生	50 時間	50 時間	15 時間																																	
小学4年生	15 時間	15 時間	6 時間																																	
小学3年生	15 時間	15 時間	6 時間																																	
項目	R1 年度	H30 年度	H29 年度																																	
中学校	3 人	3 人	3 人																																	
小学校	7 人	7 人	6 人																																	
課 題		・令和2年度以降の小学校における英語の教科化・必須化に向けて、小学校教員の英語力と授業力の向上を図っていく必要があります。 ・授業の中でのALTとの関わり合いなどを含め、ALTのより有効な活用方法について、検討する必要があります。																																		

点検評価シート（令和元年度実績）

今後の取組 の方向性	・学習指導要領の改訂により、令和２年度から実施される英語の教科化・必須化に対応するため、教員研修を行うなどの取り組みを継続的に進めていきます。 ・英語教育推進委員会を中心に、ＩＣＴやＡＬＴを活用した英語教育について研究し、令和４年度以降の英語教育の方針をとりまとめていきます。
評価委員 の意見等	・小学校での授業数の増加、ＡＬＴの増員、専科教員の加配と、小学校英語教育の充実のために着実な取り組みがなされています。令和２年度からの小学校での教科化により、中学校入学段階で”英語嫌い”にならないよう、基礎的な力が身につくにつれ、英語を学ぶことのよさが実感できるような授業づくりに取り組んでいただきたいと思います。 ・小学校における英語の教科化・必須化で、現場の先生方の負担もかなり大きくなっていると思います。授業時間の増加に応じて専科教員やＡＬＴが増員されていますが、今後もそのような対応を希望します。 ・継続的な取り組みをお願いします。 ・英語科の授業時間だけにこだわらず、総合的な学習などで国際交流を取り入れるなど、総合的な英語力を育成してほしいと思います。 ・今年度は小学校の英語教育の本格的なスタートの時期ですが、学校の現状を考えると、今はカリキュラムの履行遅れを取り戻すことを最優先にすべきだと思います。教育委員会は、本格実施を次年度へ先送りすることを検討することも必要だと考えます。

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		情報活用能力・情報モラルの育成（施策3）			担当課 学校教育ICT推進室															
内 容	「小牧市学校教育ICT推進計画」に基づき、ICT教育のモデル校（2 小学校・2 中学校）において、ICT機器を活用した「分かりやすく、主体的で協働的な学びの授業」の実践検証を開始します。また、モデル校及び全小学校にICT支援員を配置します。																			
達 成 状 況	・全小中学校の教職員で構成される小牧市IT活用研究委員会において、情報教育の指導計画（小学1～6年生）を再編成しました。 ・各モデル校においてタブレット型パソコン等を活用した先進校の授業実践等を研究しました。また、令和元年度を「機器等の操作に慣れ、日常的な活用を目指す段階」と位置づけ、タブレット型パソコン等を活用した実践事例集を作成しました。 ・モデル校では、クラスで児童生徒1人1台のタブレット型パソコンを活用して、子どもが出された課題に対してタブレット型パソコンに意見を書き込み、グループで見せ合いながら意見をまとめたり、グループでまとめた内容を他のクラスメートのタブレット画面や教室の大型スクリーンに映して、クラス全体で話し合ったりするなどの活用をしました。また、体育の授業や部活動では、タブレット型パソコンで自分や友だちが運動する姿を動画で撮影し、グループでその映像を再生しながら改善点を出し合い、技能向上につなげました。 ・各学校を訪問してICT機器の操作に対する助言や活用事例の紹介等を行うICT支援員の受託業者について、公募型プロポーザルにより、応募事業者5者から受託業者を決定しました。8月からICT支援員がモデル校及び全小学校への巡回訪問（モデル校：月4回訪問、その他小学校：月2回訪問）を開始しました。 ◆モデル校の検証対象学年及び事例数（年間） <table><tr><th>項目</th><th>味岡小</th><th>大城小</th><th>味岡中</th><th>光ヶ丘中</th></tr><tr><td>検証対象学年</td><td>小3～6</td><td>全学年</td><td>全学年</td><td>全学年</td></tr><tr><td>事例数</td><td>4事例</td><td>15事例</td><td>10事例</td><td>5事例</td></tr></table>					項目	味岡小	大城小	味岡中	光ヶ丘中	検証対象学年	小3～6	全学年	全学年	全学年	事例数	4事例	15事例	10事例	5事例
項目	味岡小	大城小	味岡中	光ヶ丘中																
検証対象学年	小3～6	全学年	全学年	全学年																
事例数	4事例	15事例	10事例	5事例																

点検評価シート（令和元年度実績）

	◆モデル校アンケート結果 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>R1年10月</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タブレットPCを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合</td><td>78.9%</td></tr> <tr> <td>授業の中でICT機器を活用したいと感じている教員の割合</td><td>97.8%</td></tr> </tbody> </table>	項目	R1年10月	タブレットPCを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合	78.9%	授業の中でICT機器を活用したいと感じている教員の割合	97.8%
項目	R1年10月						
タブレットPCを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合	78.9%						
授業の中でICT機器を活用したいと感じている教員の割合	97.8%						
課 題	・教員一人ひとりの I C T活用指導力の向上を図るため、I C T機器の操作方法や授業におけるソフトウェアの活用方法などを学ぶ機会を充実する必要があります。 ・令和元年 12 月に示された国の G I G Aスクール構想に沿い、「小牧市学校教育 I C T推進計画」を見直す必要があります。						
今後の取組の方向性	・教職員の負担を考慮しながら、各学校の状況にあわせた I C T支援員による校内研修を実施します。 ・令和 2 年度から、I C T支援員を増員し、モデル校以外の全中学校への巡回訪問（月 2 回）を開始します。 ・国の G I G Aスクール構想が目指す児童生徒 1 人 1 台端末の学習環境を見据えて実践検証を進めるとともに、計画を見直します。						
評 価 委 員 の 意 見 等	・モデル校での研究を通じて、1 人 1 台のタブレット型パソコンを活用して意見を交流し共有するなど、I C Tを活用した学び合う学びの促進が着実に進められていると評価できます。「わかりやすく、主体的で協働的な学び」のためには、新たな機器を活用するという意味での先導性ととも、I C Tの活用とこれまでの教育技術の融合も重要な視点と思われます。実践事例の共有により、各学校の研究成果を広げてほしいです。 ・1 人 1 台のタブレット端末は必要となってきます。オンライン学習については、進めていくことが大切だと考えます。 ・今回のコロナ禍により、今後、教育における I C Tの活用が加速していくと予想されます。子どもたちの I C Tリテラシーの育成により一層力を入れることを希望します。 ・家でもタブレット端末を使っている児童生徒は少なくないと思うので、それを使うことにより、理解度が深まったり、なかなか発言できない子がタブレット上で伝えることができるようになったりすると思います。さらに事業を進めていただけるといいと思います。 ・座学の授業でも活用できる部分は大きいと思いますが、運動などの実技の場合、口頭だけでは伝わりにくい部分も、映像化することによりさらに分かりやすくなると思います。						

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	必要に応じた支援員、介助員の配置（施策 4）	担当課																
		学校教育課																
内 容	特別支援学級に在籍する児童生徒をよりきめ細やかに支援するため、支援員（学校生活サポーター）を増員し、支援体制を充実します。																	
達 成 状 況	・各小中学校の特別支援学級において、担任のもとで児童生徒の学校生活を支援する「学校生活サポーター」を配置し、特別支援学級における支援の充実を図りました。 ・学校生活サポーターは、担任が用意した学習課題を行うサポートや、交流及び共同学習のための教室移動の付き添いなど、担任と相談しながら特別な支援が必要な児童生徒の個々の実態に応じた支援を行いました。 ・学校生活サポーターの支援体制として、合同研修会を学期ごとに実施し、事例を持ち寄り支援の仕方などを話し合ったり、カウンセラーの講演を聞いたりすることを通して、児童生徒への寄り添い方などを習得し、業務に役立てました。																	
	<table><tr><th>項目</th><th>R1 年度</th><th>H30 年度</th><th>H29 年度</th></tr><tr><td>特別支援教育介助員</td><td>0 人</td><td>1 人</td><td>1 人</td></tr><tr><td>学校生活サポーター</td><td>9 人</td><td>6 人</td><td>0 人</td></tr><tr><td>特別支援学級に在籍する児童生徒数</td><td>227 人</td><td>225 人</td><td>224 人</td></tr></table>		項目	R1 年度	H30 年度	H29 年度	特別支援教育介助員	0 人	1 人	1 人	学校生活サポーター	9 人	6 人	0 人	特別支援学級に在籍する児童生徒数	227 人	225 人	224 人
	項目	R1 年度	H30 年度	H29 年度														
	特別支援教育介助員	0 人	1 人	1 人														
	学校生活サポーター	9 人	6 人	0 人														
	特別支援学級に在籍する児童生徒数	227 人	225 人	224 人														
※特別支援教育介助員を減員した理由は、介助が必要な児童が小学校卒業を機に特別支援学校へ進学したためです。																		
課 題	・平成 28 年 4 月に「障害者差別解消法」が施行され、より重度の障がいがある児童生徒の地域の学校への就学希望が増えてきています。また、外国人児童生徒の増加に伴い、障がいがある外国人児童生徒も増えてきています。																	
今後の取組の方向性	・令和 2 年度から、特別支援学級の充実を図るため、学校生活サポーターを 3 名増員し、12 名体制とします。 ・今後も特別支援学級に在籍する児童生徒の人数や個別支援が必要な児童生徒の状況を把握し、適切に学校生活サポーターを配置するように取り組んでいきます。																	
評価委員の意見等	・学校生活サポーターが平成 30 年度より導入され、さらに令和元年度・2 年度と増員が続けられており、特別支援教育の充実の取り組みが進められています。学校生活サポーターの方々がいっそう活躍できるよう、教員との連携や研修の機会をさらに充実することが期待されます。																	

点検評価シート（令和元年度実績）

	・一人ひとりの能力・特性が大きく異なるので、人の配置・増員は、支援充実のために大切なことだと思います。ただ、人を増やすことも大切ですが、子ども一人ひとりの把握や、短期目標・長期目標等を担任を中心に担当する先生やサポーターが共通理解し、共に育てていく姿勢を持つことが何よりも大切であると考えます。 ・特別支援学級の子どもが、通常学級でも部分的に活動できるように増員を活かしてもらいたいと思います。 ・年度の途中で介助が必要な児童生徒が転入してきた場合に速やかに介助員を配置するなど、柔軟な対応を望みます。 ・引き続きのきめ細かな支援をお願いします。 ・一人ひとりの状況が違うので、全ての把握は難しいと思いますが、子どもの“できること”や“できそうなこと”などを伸ばしていくためには支援が必要だと思います。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催については、国民の関心事になっています。そこから見えてくる特別支援教育は、関係の報道や番組も多彩となり、様々な観点から障がいを深く考える機会も多くなることから、それへの一層の理解と共生の意識を根付かせるタイミングとして絶好だと考えます。
--	---

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		日本語初期教室の実施（施策 5）			担当課 学校教育課																													
内 容		市内の小中学校に転入する日本語が分からない児童生徒に対し、日本語の日常会話や日本の学校のきまり、習慣や基礎的学習などの定着を図り、安心して日本の学校に適応するための指導を実施します。																																
達 成 状 況		- 平成 30 年度から、マネジメント機能を強化するため、日本語初期教室室長を配置しています。また、令和元年度は、スペイン語の語学相談員を 1 名増員し、ポルトガル語 6 名、スペイン語 5 名、タガログ語 6 名、中国語 3 名の計 20 名の語学相談員（日本語初期教室を含む）を配置しました。 - 日本語指導員を日本語初期教室 2 名、巡回 2 名の計 4 名配置し、日本語の指導を行いました。 - 来日直後で日本語指導が必要な児童生徒を対象に、日本語初期教室（にじっこ教室）で約 3 か月間、集中的に日本語や日本の学校生活におけるルールを指導しました。 <table><tr><th rowspan="2">場 所</th><th colspan="3">入室児童生徒数</th></tr><tr><th>R1 年度</th><th>H30 年度</th><th>H29 年度</th></tr><tr><td>にじっこ教室（大城小学校内）</td><td>14 人</td><td>22 人</td><td>12 人</td></tr><tr><td>分室（適応指導教室カルミア 1 階）</td><td>40 人</td><td>27 人</td><td>35 人</td></tr></table> - 母語の個別指導や外国人児童生徒教育連絡協議会による外国人児童生徒の進路説明会を実施しました。 - 児童生徒が集中的に日本語初期教室へ入室した場合の対応策の 1 つとして、学習チューターの活動場所に日本語初期教室を加えました。 - 語学相談員の採用面接に際して、筆記、口述の試験を行い、より高い語学力を持つ方の採用を行いました。					場 所	入室児童生徒数			R1 年度	H30 年度	H29 年度	にじっこ教室（大城小学校内）	14 人	22 人	12 人	分室（適応指導教室カルミア 1 階）	40 人	27 人	35 人													
場 所	入室児童生徒数																																	
	R1 年度	H30 年度	H29 年度																															
にじっこ教室（大城小学校内）	14 人	22 人	12 人																															
分室（適応指導教室カルミア 1 階）	40 人	27 人	35 人																															
課 題		日本語が不自由な児童生徒が増加してきています。また、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語以外の言語は、対象人数は少ないですが増えています。 <table><tr><th>項目</th><th>ポルトガル語</th><th>スペイン語</th><th>タガログ語</th><th>中国語</th><th>その他</th><th>合計</th></tr><tr><td>R1 年度</td><td>355 人</td><td>216 人</td><td>292 人</td><td>52 人</td><td>55 人</td><td>970 人</td></tr><tr><td>H30 年度</td><td>325 人</td><td>207 人</td><td>313 人</td><td>54 人</td><td>65 人</td><td>964 人</td></tr><tr><td>H29 年度</td><td>321 人</td><td>206 人</td><td>321 人</td><td>48 人</td><td>59 人</td><td>955 人</td></tr></table> ※その他（13 ヶ国語） 英語、韓国語、ウルドゥ語（パキスタン）、フランス語、イタリア語等					項目	ポルトガル語	スペイン語	タガログ語	中国語	その他	合計	R1 年度	355 人	216 人	292 人	52 人	55 人	970 人	H30 年度	325 人	207 人	313 人	54 人	65 人	964 人	H29 年度	321 人	206 人	321 人	48 人	59 人	955 人
項目	ポルトガル語	スペイン語	タガログ語	中国語	その他	合計																												
R1 年度	355 人	216 人	292 人	52 人	55 人	970 人																												
H30 年度	325 人	207 人	313 人	54 人	65 人	964 人																												
H29 年度	321 人	206 人	321 人	48 人	59 人	955 人																												

点検評価シート（令和元年度実績）

	・能力のある語学相談員の確保が難しくなっています。 ・出入国管理法の改正に伴い、今後、日本語指導が必要な児童生徒が増えていく可能性があるため、動向を注視し、日本語初期教室の体制の増強を検討していく必要があります。 ・令和元年 11 月に、日本語初期教室（分室）に入室を希望する児童生徒が定員を超過したため、地域の会館の一室を借用して、授業を実施しました。今後も入室希望者の増加に対応するよう新たな施設の確保を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・日本語初期教室へ児童生徒が集中的に入室した場合や多言語化に対応していくための体制を引き続き検討します。 ・語学相談員に日本語能力検定の受験を勧めるなど、能力・意欲の向上に努めます。
評価委員の意見等	・日本語初期教室、進路説明会など、活動の充実が認められます。今後の増加するニーズに適切に対応することが必要です。 ・学習チューターの活用は、素晴らしいと思います。日本語初期教室についてですが、日本語の習得は個人差が大きいと思いますので、一応の目安は3か月としても、少し幅を持たせ、3～6か月と柔軟に対応していただきたいと思います。 ・大学生ボランティアを募るなど、支援側の裾野の拡大に取り組んでほしいです。 ・各地域にひとつずつは教室（分室）を設けるといいと思います。もしくは、言語ごとの教室が可能であれば、設けるといいと思います。 ・休校によって学びから縁遠くなっていることが予想されるので、習熟度別のきめ細かな指導が望ましいです。 ・休校の影響で、日本人であってもストレスで肉体的にも精神的にも乱れていると思われる中、「ことば」が通じないとなると、さらにストレスが蓄積されると思います。そのあたりも踏まえて、丁寧な指導等ができるとういと思います。

基本目標2 認め合い高め合う豊かな心と、健やかな体の育成

- 国や郷土を愛する心と自己肯定感を養うとともに、いのちを大切にする心や他者を思いやる心を育みます。
- 体力の向上や学校給食を通じた食育、読書活動の推進など、心身の健全な成長を支えます。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		児童生徒の心のケアの実施（施策6）		担当課 学校教育課		
内 容		スクールソーシャルワーカーを増員し、児童生徒が抱える様々な悩みごとへの相談、支援体制を充実します。				
達 成 状 況		・学校カウンセラーやスクールソーシャルワーカーが学校や家庭を訪問し、児童生徒の支援に取り組みました。市内 25 校すべての学校から訪問依頼があるため、毎日いずれかの学校に訪問し、多い学校では週に 1 回以上訪問しました。 ・全小中学校に配置している心の教室相談員が、児童生徒一人ひとりの悩みや相談に対応しました。				
		内 容（場所）	項 目	R1 年 度	H30 年 度	H29 年 度
		学校カウンセラー （各小中学校）	訪 問 学 校 数	延 べ 361 校	延 べ 382 校	延 べ 381 校
		スクールソーシャルワ ーカー（各小中学校等）	訪 問 活 動 回数	延 べ 746 回	延 べ 463 回	延 べ 259 回
		心の教室（各小中学校）	面 接 に よ る 相 談 人 数	21, 123 人	18, 269 人	24, 548 人
		適応指導教室 （カルミア・アイトワ）	入 級 児 童 生徒数(年 度末)	36 人	46 人	33 人
		不登校児童生徒数		410 人	393 人	316 人
課 題		・子どもたちの抱える悩みは多様であり、悩みに応じてより適切な手段による支援を速やかに行う必要があります。 ・家庭環境に起因する不登校児童生徒が増加傾向にあるため、児童生徒の心のケアだけでなく、家庭も含めたサポートを進める必要があります。				

点検評価シート（令和元年度実績）

今後の取組 の方向性	・小中学校、教育委員会及び関係機関の相互の連携をより一層強化していきます。また、貧困、ネグレクト及び虐待などの家庭環境の問題を抱える児童生徒の心のケアに取り組むため、スクールソーシャルワーカーの増員や活用の仕組みを引き続き検討していきます。
評価委員 の意見等	・学校カウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活動へ一層の充実支援策が市として求められます。不登校児童生徒が増えており、それにより適応指導教室への入級児童生徒も増えています。ただし、依然として1割以下であり、その他の児童生徒への対応も充実する必要があります。 ・難しいこととは思いますが、できるだけ早くスクールソーシャルワーカーなどの増員を行い、余裕をもって各校に定期的に訪問できるような体制の充実を望みます。 ・休校が続き、子どもたちの生活が乱れてしまったため、6月からの学校再開で、不登校児童生徒が増加しないか心配です。子どもたちへの早期対応を望みます。 ・心のケアが必要な児童生徒が増えてきています。引き続きの支援を望みます。 ・学校カウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの活動が学校対応に即活かされるように、密な連携体制を構築してほしいです。 ・学校教育は児童生徒一人ひとりへの対応が基本です。そのため、学校現場は慢性的な人手不足の状態にあるとも考えられます。教職員の適切な配置は必要なことですが、人数が多くても組織が機能するとは限りません。校内は様々な立場の教職員で構成されていますので、それぞれが機能し合う体制づくりが肝要です。それがリーダーシップであり、子どもたちが楽しく充実した学校生活を送れるかどうかの鍵になると思います。 ・心のケアも必要ですが、物理的な面でのサポートももう少し厚くできないだろうかと思っています。もしくは、家庭の問題であるならば、多方向からの子どもだけでなく保護者へのフォローももう少し上手くできたらいいのにとっています。

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	小中学生にすすめるブックリストの活用（施策8）	担当課 図書館								
内 容	児童生徒が読書記録を蓄積し、活用できる「読書ノート」（小学生向け）を全小学生に配布し、子どもの読書活動の推進を図ります。また、中学生向け「読書ノート」の内容を検討します。									
達 成 状 況	・ 小学校低学年（1～2年生）、小学校中学年（3～4年生）及び小学校高学年（5～6年生）向けの読書ノートを市内小学校に通う全児童に配布し、令和元年10月から令和2年2月末まで活用いただきました。									
	・ 「小学生向け読書ノートの手引き」を作成し、各学校に配布しました。									
	・ 小学校を対象に、ブックリスト掲載本の追加配本貸出（1,520冊）を実施しました。									
	<table><tr><td>追加配本貸出</td><td>R1 年度</td></tr><tr><td>希望あり</td><td>13 校</td></tr><tr><td>希望なし</td><td>3 校</td></tr></table>				追加配本貸出	R1 年度	希望あり	13 校	希望なし	3 校
	追加配本貸出	R1 年度								
	希望あり	13 校								
	希望なし	3 校								
	・ 読書ノートの導入効果等を確認するため、小牧小学校、一色小学校、小木小学校、光ヶ丘小学校の全児童と学級担任に対し、アンケートを実施しました。（小学生2,058人、学級担任69人）									
	小学生アンケート集計結果（一部抜粋）									
	Q1. 読書ノートにある「ブックリスト」の本は何冊読めましたか。									
		低学年	中学年	高学年						
	1冊～5冊	197人	288人	220人						
	6冊～10冊	133人	107人	12人						
	11冊以上	141人	42人	4人						
	Q2. 読書ノートを使って楽しかったですか。									
	楽しかった	247人	139人	35人						
	少し楽しかった	192人	247人	179人						
あまり楽しくなかった	88人	115人	207人							
楽しくなかった	76人	163人	336人							
Q3. 読書ノートを使う前と比べ、本が好きになりましたか。										
すごく好きになった	209人	119人	32人							
好きになった	154人	136人	85人							
少し好きになった	117人	172人	148人							
かわらない	122人	238人	494人							

点検評価シート（令和元年度実績）

Q4. これからも読書ノートを使いたいですか。			
はい	469 人	370 人	229 人
いいえ	124 人	295 人	531 人

学級担任アンケート集計結果（一部抜粋）	
Q1. 学級の中で読書ノートを活用できましたか。	
十分できた	1 人
ある程度できた	9 人
あまりできなかった	30 人
できなかった	27 人

（自由意見抜粋）

- ・チェックをしてスタンプを押すなど仕事が増える。
- ・意欲的な子とそうでない子と両極端でした。教員が定期的に声をかけるだけで、変わってくると思います。声かけ程度なら、そんなに手間ではないです。
- ・読書好きな子を増やす、読書量を増やすという意図は良いと思いますが、物が増えると負担も増えると思います。
- ・読書ノートを配布してから、認定証をもらえるようになるまでに、間があり、子どもがだれてしまった。読書ノートを配布したときには、本をよく借りてノートを開いていた。
- ・ブックリストの本にこだわる必要があるのかなと思った。ブックリストの本ではなく自分の好きな本をたくさん読んでカードがもらえない人がたくさんいたから。

・来年度実施予定の中学生版の読書ノート（案）について、光ヶ丘中学校で試行し、1～2 年生を対象にアンケートを実施しました。（139 人）

中学生アンケート集計結果（一部抜粋）	
Q1. 読書ノートには何冊記録できましたか。	
1 冊～5 冊	13 人
6 冊～10 冊	2 人
11 冊以上	1 人
ブックリストの本や、その他の本を読んだが記録しなかった	92 人

点検評価シート（令和元年度実績）

	Q2. 読書ノートを使用して楽しかったですか。																	
	楽しかった		2 人															
	少し楽しかった		25 人															
	あまり楽しくなかった		29 人															
	楽しくなかった		49 人															
	Q3. 読書ノートを使用する前と比べ、本が好きになりましたか。																	
	すごく好きになった		0 人															
	好きになった		10 人															
	少し好きになった		16 人															
	かわらない		80 人															
	Q4. これからも読書ノートを使いたいですか。																	
	はい		16 人															
	いいえ		89 人															
	・ブックリストの本を 10 冊以上読了した児童に対し、読書マスター認定証を発行しました。（合計 1,391 枚）																	
	<table><tr><td rowspan="2">項目</td><td colspan="3">R1 年度</td></tr><tr><td>低学年</td><td>中学年</td><td>高学年</td></tr><tr><td>配布枚数</td><td>1,011 枚</td><td>314 枚</td><td>66 枚</td></tr><tr><td>認定証配布の割合</td><td>36.8%</td><td>11.0%</td><td>2.3%</td></tr></table>				項目	R1 年度			低学年	中学年	高学年	配布枚数	1,011 枚	314 枚	66 枚	認定証配布の割合	36.8%	11.0%
項目	R1 年度																	
	低学年	中学年	高学年															
配布枚数	1,011 枚	314 枚	66 枚															
認定証配布の割合	36.8%	11.0%	2.3%															

課 題	- アンケート結果から、学年が上がるにつれて本を読んだ冊数や読書ノートの活用頻度が下がっているため、小学校中学年・高学年の取り組み方法を改善していく必要があります。 - 学級担任へのアンケートからうかがえる、教員の負担感を軽減し、協力を得やすい方法を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	- 令和 2 年度は、新小学 1 年生、3 年生、5 年生及び市内全中学校全学年へ読書ノートを配布する予定です。 - 学校との連絡調整を十分に図り、冊数チェックや認定証の発行について、運用方法の簡素化を検討します。
評価委員の意見等	読書ノートの効果が検証されており、PDCAが適切に行われているといえます。ただし、小学校高学年や中学校の評価が低く、発達段階に合わせた読書指導の対応が必要です。また、担任からの評価も高くありません。特に両極端という声もあるため、個人差（グループ間）の比較もすべきです。読書ノートを使い、学び合いの視点から、意見の発信・交流の機会を増やすことも大切であると思います。読書だけ単独に考えるのではなく、カリキュラム・マネジメントの視点から、教育課程における活動の位置付け

点検評価シート（令和元年度実績）

	を明確にし、教科内外の活動と結び付けてほしいです。（例えば、国語・理科・社会の単元に関連する本を読んでいる子どもに発表させるなど）。 ・低学年で、効果が上がっていることは、大変良いことだと思います。小さいうちに本好きな子どもを育てる一つ的手段として有効で、継続を望みます。高学年・中学生にとっては、この方法はあまり効果がないように思われますので、違うアプローチが必要だと思います。 ・「読書ノート」に加え、「小学生向け読書ノートの手引き」の作成・配布は、素晴らしいと思います。アンケートを見ますと、低学年に好評のようです。この低学年の子どもたちが高学年になったときのアンケート結果が楽しみです。引き続きの実施を希望します。 ・ブックリストの本を柔軟に拡充してほしいです。読書の導入として、マンガなどがあっても良いと思います。 ・児童生徒の読書環境を整備することは必要ですが、読書意欲の向上を目指す環境整備だけでは教職員の負担増に拍車をかけることにもなりかねません。幼児期のブックスタートや読み聞かせなど、子どもの成長段階に応じた対応の連携（保健センター・児童センター・公立図書館・学校現場など）が大切だと思います。段階毎の考えも大切ですが、先を見通した体制づくりが不可欠だと考えます。 ・低学年には、「ミッションをこなす」という感覚で読書ノートを使い、本を好きになるということにつながったと思いますが、学年が上がるにつれ、「それは必要なの？いらないならやらないよ」というような感情になり、なかなか上手く活用されなかったのだと思います。大人でもそうですが、「活字離れ」が進んでいる中で、子どもだけでなく、家庭で読書することのできる環境づくりが必要だと思います。 ・学年が上がると読んだ冊数が少ない児童が増えるので、その対策が必要です。 ・大人用のブックリスト、もしくは親子で活用できるブックリストがあると、大人の活字離れも少しは止められるのではないかと思います。
--	---

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	栄養教諭・学校栄養職員等による食育・給食指導 （施策10）	担当課 学校給食課
内 容	望ましい食習慣や食生活を習得させる食育指導の充実を図るとともに、給食に地元農産物を取り入れ、地元農業や郷土料理等、食に対する理解を深めます。	
達 成 状 況	・栄養教諭5名、栄養職員1名により、市内小学校の2年生及び5年生の全クラスを目標に市内各校を巡回し、給食時間等を活用して野菜の摂取量などの栄養バランスや小牧の特産物などの食育指導を行いました。 ・学校給食における地産地消については、地元産の食材を取り入れ、地元農業や郷土料理への関心を高める取り組みを行いました。（センター毎の対応で延べ70回程度実施） ・8月に市公民館及びふらっとみなみで開催した親子料理教室では、給食での人気メニューを作ることにより、食材が色々な調理により徐々に完成していく料理のプロセスを実体験でき、食べることだけでなく、食材や料理についても関心や理解が深まりました。 ・6月、11月、1月のそれぞれ1週間を「愛知を食べる学校給食週間」と位置付けて、愛知県産や小牧産の食材を集中して提供し、校内放送や給食だよりを通じて特産物の由来や栄養面などの指導に努めました。	
課 題	・栄養教諭や栄養職員は学校と給食センターの兼務であるため、指導のための十分な時間をとることが難しい状況です。 ・農産物生産者の高齢化や天候不順などで、供給量や質の安定的確保が年々困難になってきています。	
今後の取組の方向性	・栄養教諭・栄養職員による食に関する指導に加えて、他の教職員が食に関する指導で活用できる媒体、ポスター等の作成・配布に努めます。 ・農産物生産者と連絡を密に行い、給食食材の提供可能な時期、供給量を考慮しつつ、学校給食献立作成を進めていきます。	
評 価 委 員 の 意 見 等	・教科や総合などでの学びとの連携を図ることが求められます。農産物生産者の高齢化・天候不順などで供給量や質の安定的確保が困難になっているのであれば、そのことを子どもたちに考えさせるような授業が展開できるのではないのでしょうか。 ・望ましい食習慣の形成を目指すためには、家庭での食の実態把握が不可欠です。食育の必要性は理解できますが、学校と保護者との親密な連携が基礎になってくると思います。 ・地元食材を使い郷土料理の味を覚えてもらう取り組みは素晴らしい	

点検評価シート（令和元年度実績）

	いと思います。今後の取り組みの方向性ですが、新たに作成する媒体やポスターを活用した、栄養教諭・栄養職員の方以外の教職員の方による指導はとても良いアイデアだと思います。 ・献立表を見ていると、気になるメニューがあることもしばしばあります。8月に親子料理教室を開催されていますが、時間の都合が合えば、複数時期・複数場所で開催していただけると、より多くの方が参加でき、食に対する興味から、地元の食材・郷土食への興味へともつながるのではないかと思います。 ・地元の方で、郷土食を作っていただける方がいらっしゃれば、その方から学ぶというのも良いと思います。
--	--

基本目標3 未来につなげる、安全で充実した教育環境づくり

- ☞ 放課後などの学習支援や経済的な支援を充実するなど、一人ひとりのこどもの学びを保障し、教育の質を高めます。
- ☞ 学校施設の整備など、すべてのこどもが安心して学ぶことができる環境を整えます。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	経済的に困窮している児童生徒の保護者に対する費用の助成・就学援助（施策 1 1）				担当課 学校教育課																					
内 容	経済的な理由で就学が困難な市内小中学校に通う児童生徒の保護者に対する就学援助を実施し、保護者の負担を軽減します。																									
達 成 状 況	・経済的な理由で就学が困難な児童生徒の保護者に対して、給食費や学用品費などの一部を援助しました。 ・新小学 1 年生に対しては、10 月に実施する就学児健診の案内に同封させていただくとともに、各学校で実施する就学時健診時においても改めて保護者に説明し、新中学 1 年生に対しては、現在の受給者に個別周知するとともに、広報こまきやホームページにおいて広く周知を行いました。 ・国の要綱改正に準じて、卒業アルバム等の助成を新設し、小学 6 年生及び中学 3 年生の該当者に支給しました。 ・新入学学用品費について、毎年 1 月末から 2 月初旬に開催する新入学生対象の入学説明会において必要な学用品を説明するため、説明会后、すぐに購入できるよう、支給時期を 2 月初旬に早めました。 <table><tr><th rowspan="2">項目</th><th colspan="2">R1 年度</th><th colspan="2">H30 年度</th><th colspan="2">H29 年度</th></tr><tr><th>小学校</th><th>中学校</th><th>小学校</th><th>中学校</th><th>小学校</th><th>中学校</th></tr><tr><td>就学援助費</td><td>782 人</td><td>413 人</td><td>795 人</td><td>411 人</td><td>728 人</td><td>454 人</td></tr></table>						項目	R1 年度		H30 年度		H29 年度		小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	就学援助費	782 人	413 人	795 人	411 人	728 人	454 人
項目	R1 年度		H30 年度		H29 年度																					
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校																				
就学援助費	782 人	413 人	795 人	411 人	728 人	454 人																				
課 題	・制度の主旨や仕組みに対する問合せが多いため、制度内容をより一層わかりやすく周知する必要があります。																									
今後の取組の 方 向 性	・支援を必要とする児童生徒が援助を受けられるよう、より一層わかりやすい周知に努めます。																									
評 価 委 員 の 意 見 等	・学用品購入の実態に合わせて支給時期の見直しが達成されたことは、望ましいことです。経済的な理由から学校への行きづらさを感じ、不登校につながっていないか、データの面でも事例の面でも集積し分析する必要があります。特に、新型コロナウイルスによって家計急変の家庭の増加が予想されるので、きめ細かな対応が必要です。 ・新型コロナウイルスの影響により、今年度は収入の減少がある世帯がかなり多いと思いますので、周知方法の改善などは、早期に																									

点検評価シート（令和元年度実績）

	行う必要があります。 ・卒業アルバム等の助成は、とてもありがたいと思います。“私は援助を受けてもいいのだろうか？”と思いつつも相談できない保護者はまだ多数いるのではと思います。「こういう状況であれば援助可能です」という事例のようなものを提示できれば、もっと相談しやすくなると思います。 ・援助を受ける立場に立った改善が毎年行われており、評価できます。引き続きの改善を期待しています。
--	--

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	児童生徒に対する学習支援の実施（施策 1 1）	担当課
		こども政策課
内 容	「駒来塾」を開設し、学習意欲があっても学力の定着が進んでいない中学生を対象に、教員OBなどの協力を得て、学習支援活動に取り組みます。令和元年度は、実施中の3地区（東部・北里・味岡）に、新たに1地区（小牧）を加えた4地区で実施します。	
達 成 状 況	・既存の3地区に加え、令和元年8月から、新規1地区（小牧地区）を開塾し、市内全中学校区の生徒が対象となりました。 ・学校の協力のもと、全生徒に募集チラシを配布するとともに、福祉総務課及び学校教育課と連携し、生活保護世帯、児童扶養手当受給者、就学援助費受給者へ個別に働きかけを行いました。 ・4教室合わせて59名の参加があり、基礎学力に合わせた個別の学習支援を実施しました。 ・生徒の出席率は、4教室の平均が概ね8割であり、徐々に勉強する習慣が身についてきている様子が窺えました。また、講師と生徒、生徒同士などの交流により、お互いの成長を育む居場所づくりにもなりました。	
	開催時期	【東部地区・北里地区・味岡地区】 毎週木曜日夜間 (北里・味岡地区の夏休み5日間については昼間) 【小牧地区】 夏休み4日間、2学期から毎週木曜日夜間
	参加料	無料
	対象教科	数学、英語を中心に5教科
	学習体制	各教室とも学習支援員2～3名、学習サポーター2～3名の体制で、講師1名につき生徒3～4名を担当
	【東部地区】 場 所：東部市民センター学習室・視聴覚室 参加生徒：22名（篠岡中10名・桃陵中9名・光ヶ丘中3名） 登録講師：20名（学習支援員13名・学習サポーター7名）	
	【北里地区】 場 所：北里市民センター集会室 参加生徒：14名（北里中8名・小牧西中6名） 登録講師：14名（学習支援員8名・学習サポーター6名）	

点検評価シート（令和元年度実績）

	【味岡地区】 場所：味岡市民センター視聴覚室 参加生徒：12名（味岡中8名・岩崎中4名） 登録講師：15名（学習支援員6名・学習サポーター9名） 【小牧地区】 場所：ふれあいセンター第3会議室・和室 参加生徒：11名（小牧中9名・応時中2名） 登録講師：11名（学習支援員6名・学習サポーター5名）
課 題	・参加している生徒は、母子（父子）家庭をはじめ、外国籍、不登校など、それぞれの事情を抱えており、また、学習理解度の差もあるため、教える側の多様性が求められています。 ・学習支援員及び学習サポーターの人材確保が必要です。 ・信頼関係を築くため、学習支援員及び学習サポーターの固定配置が理想ですが、講師の希望に合わせたローテーションを組んでいるため難しいです。
今後の取組の方向性	・学習支援員及び学習サポーターを広く募集し、研修会を開催します。また、地区ごとに学習支援員及び学習サポーターの意見交換会を開催し、共通理解を深めます。 ・運営や指導方法を検討するため、定期的に塾長会を開催します。 ・市内全地区が対象となり、地区の分割の必要性などを含む今後の運営について議論を進める必要があるため、定期的に運営委員会を開催します。
評価委員の意見等	・地域の拡大が達成された点で評価できます。確実にニーズが存在しており、市が取り組む意義は大いにあります。人材確保に努め、充実をさらに図っていただきたいと思います。 ・教育環境に恵まれない生徒にとって、とても重要な取り組みだと思います。昨年度は、小牧地区を加え、エリアを着実に拡大されており素晴らしい取り組みだと思います。 ・良い取り組みだと思います。ぜひ継続してください。 ・支援員数を充実させるための取り組みを期待します。 ・支援員やサポーターの皆さんに感謝したいです。地区の分割などにより、運営に過度の負担にならないよう、慎重に議論してください。

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本 計画の施策番号)	こども夢・チャレンジ事業の展開（施策１３）	担当課																					
		こども政策課																					
内 容	こどもの将来等を育むきっかけとして様々な事業を展開します。 ①学習支援事業「駒来塾」 ②プログラミング講座 ③市内産業見学会開催事業 ④夢にチャレンジ助成金支給事業 ⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 ⑥こども夢サポーター制度																						
達 成 状 況	・「こども夢・チャレンジ No.1 都市」の実現に向けて、こどもの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業を展開しました。 ①学習支援事業「駒来塾」 ※施策１１参照 ②プログラミング講座 中部大学と連携し、デジタルのモノづくりを学ぶため、全４回の講座を小学４～６年生を対象に実施しました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th><th>開催日</th><th>参加者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中部大学</td><td>11月２日（土）、11月23日（土）、 11月30日（土）、12月7日（土）</td><td>20人（内訳）４年生 7人 ５年生 5人 ６年生 8人</td></tr> </tbody> </table> ③市内産業見学会開催事業 小学５・６年生及び中学生を対象に、地元企業等への愛着を育む機会として、市内企業の見学や職業体験を行いました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th><th>参加者</th><th>見学・体験先</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月30日（火）</td><td>20人</td><td>CKD(株)、(株)クラウンパッケージ</td></tr> <tr> <td>8月9日（金）</td><td>18人</td><td>カゴメ(株) 工場見学と調理体験</td></tr> <tr> <td>7月26日（金）</td><td>20人</td><td>小牧市民病院 病院体験</td></tr> <tr> <td>8月5日（月）</td><td>10人</td><td>小牧消防署 消防士体験</td></tr> </tbody> </table> ④夢にチャレンジ助成金支給事業 25歳以下の高校、大学等の在籍者を対象に、自分の夢を実現するための計画を募集し、公開プレゼンテーションによる審査を行い、優秀者に助成金（上限１件30万円）を支給しました。		場所	開催日	参加者	中部大学	11月２日（土）、11月23日（土）、 11月30日（土）、12月7日（土）	20人（内訳）４年生 7人 ５年生 5人 ６年生 8人	開催日	参加者	見学・体験先	7月30日（火）	20人	CKD(株)、(株)クラウンパッケージ	8月9日（金）	18人	カゴメ(株) 工場見学と調理体験	7月26日（金）	20人	小牧市民病院 病院体験	8月5日（月）	10人	小牧消防署 消防士体験
場所	開催日	参加者																					
中部大学	11月２日（土）、11月23日（土）、 11月30日（土）、12月7日（土）	20人（内訳）４年生 7人 ５年生 5人 ６年生 8人																					
開催日	参加者	見学・体験先																					
7月30日（火）	20人	CKD(株)、(株)クラウンパッケージ																					
8月9日（金）	18人	カゴメ(株) 工場見学と調理体験																					
7月26日（金）	20人	小牧市民病院 病院体験																					
8月5日（月）	10人	小牧消防署 消防士体験																					

点検評価シート（令和元年度実績）

	<table><tr><td>交付件数</td><td>交付実績</td><td>内容</td></tr><tr><td>1 件</td><td>300,000 円</td><td>「ドイツで音楽を学ぶ」 大学院生 1 人</td></tr></table> ⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 海外の大学に、3 ヶ月以上留学しようとする大学生等に、留学先の国や地域に応じて、12 回を上限に、月額 3 万～5 万円を支給する事業です。令和元年度は、募集を行いました、応募がありませんでした。 ⑥こども夢サポーター制度 市とともにこどもの夢を応援する団体や企業を募り、こども夢・サポーターとして登録し、登録証の交付とこまき山ぬいぐるみを贈呈しました。また、市のホームページで各登録者の取り組み状況を紹介しました。 【登録数】（各年度末現在） <table><tr><td>R1 年度</td><td>H30 年度</td><td>H29 年度</td><td>H28 年度</td><td>合計</td></tr><tr><td>4 団体</td><td>7 団体</td><td>32 団体</td><td>26 団体</td><td>69 団体</td></tr></table>	交付件数	交付実績	内容	1 件	300,000 円	「ドイツで音楽を学ぶ」 大学院生 1 人	R1 年度	H30 年度	H29 年度	H28 年度	合計	4 団体	7 団体	32 団体	26 団体	69 団体
交付件数	交付実績	内容															
1 件	300,000 円	「ドイツで音楽を学ぶ」 大学院生 1 人															
R1 年度	H30 年度	H29 年度	H28 年度	合計													
4 団体	7 団体	32 団体	26 団体	69 団体													
課 題	【①学習支援事業「駒来塾」】 ※施策 1 1 参照 【②プログラミング講座、③市内産業見学会開催事業】 ・参加するこどもたちにとって有意義なものとなるよう、大学や企業と企画内容を調整する必要があります。 【④夢にチャレンジ助成金支給事業、⑤大学生等海外留学奨学金支給事業】 ・認知度を上げるため、県内大学等にチラシ等を配布し、広報やホームページ、成人式などで事業の周知を図っていますが、応募件数が少ない状況が続いていますので、両事業の制度を見直す必要があります。 【⑥こども夢サポーター制度】 ・応募件数が少ないため、事業の周知を図り、広報などで募集を呼びかけ、知名度を広げる必要があります。																

点検評価シート（令和元年度実績）

今後の取組 の方向性	【①学習支援事業「駒来塾」】 ※施策11 参照 【②～⑥共通】 ・こどもたちが将来の希望や夢を持ち、その実現に向けてチャレンジしようとする気持ちを持てるような新しい取り組みを検討します。
評価委員 の意見等	・応募件数が少ない事業については、原因に対する調査を進めながら、より魅力的な内容に更新すべきです。 ・夢にチャレンジ助成金に大学生等海外留学奨学金を含める形など、制度変更を検討すべきです。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響で、しばらくは、海外留学が難しいかもしれません。 ・夢にチャレンジ助成金と大学生等海外留学奨学金を一本化し、できれば「夢にチャレンジ」という文言が入っているほうに集約し、留学については、大学生等だけでなく高校生も対象に入れてもらえればと思います。 ・こども夢サポーター制度については、参加するメリットを明確にした上での周知を期待します。 ・夢にチャレンジ助成金、大学生等海外留学奨学金及びこども夢サポーター制度は、あまり魅力的なコンテンツとは思われないために、応募が少ないと考えます。プログラミング講座と市内産業見学会開催事業は、小学生の将来的なビジョンを作っていくためには良い事業だと思います。 ・参加するメリット、応募するメリットの明確化により、良い事業になると思います。その上での周知が必要だと思います。

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	I C T機器の整備・充実（施策14）	担当課 学校教育 I C T推進室
内 容	「小牧市学校教育 I C T推進計画」を基本として、学校のニーズに即した I C T機器の導入、進化する I C T環境に対応したネットワーク環境の整備を行います。また、I C T教育のモデル校（2 小学校・2 中学校）に、3 クラスに 1 クラス分程度のタブレット型パソコンを整備することで、授業展開に応じて 1 人 1 台環境を可能とする学習環境を整備し、将来の I C T環境整備のあり方を検討します。	
達 成 状 況	【モデル校（味岡小、大城小、味岡中、光ヶ丘中）】 ・「小牧市学校教育 I C T推進計画」に基づき、新たにスタートしたモデル校事業では、3 クラスに 1 クラス分程度の学習者用タブレット型パソコンを整備し、I C T教育の授業実践を開始しました。モデル校間の情報交換会を月 1 回程度実施する中で、各校の創意工夫や課題解決方法の検証や共有を図り、全校導入に向けた経験の蓄積をしました。 ・クラスで 1 人 1 台のタブレット型パソコンを使って、情報を収集・整理したり、自分自身の考えをまとめたり、ドリル学習をする場面が見られました。 【全中学校】 ・普通教室及び特別教室用のノートパソコンをタブレット型パソコンに更新するとともに、各教室に電子黒板機能付きプロジェクタ及びスクリーンを新たに導入しました。合わせて、無線 L A N のアクセスポイントを普通教室と特別教室に各 1 台程度となるよう増設し、授業における I C T機器活用機会の拡大を図りました。 ・コンピュータ教室のノートパソコンをタブレット型パソコンに更新しました。 ・生徒が使用する学習者用タブレット型パソコンを更新し、台数を各校 9 台から 10 台（篠岡中のみ 9 台）に増台し、授業に活用しました。 ・生徒が使用するタブレット型パソコンは、持ち運びが容易であるという利点を活かし、活用の幅を広げることが可能となるよう、同一機種に統一して導入しました。（モデル校分を含む）	

点検評価シート（令和元年度実績）

【全小中学校】

- ・各小中学校では、教職員用と児童生徒用のネットワークを分離して校内ネットワークを構築し、校務や学習活動に活用しました。また、教育委員会と各小中学校を光専用回線で接続し、教育情報を校内だけでなく教育委員会と学校間で共有できるようにしました。さらに、各小中学校においては、無線LANにより、タブレット型パソコンを校舎内で自由に動かして使用できるようにしました。
- ・児童生徒の日常のICT関連機器の利用実態は、各小中学校には電子黒板機能付きプロジェクタ及びスクリーンが整備されており、教室用のパソコンからデジタル教科書や各種教材を映して授業を行いました。また、児童生徒用のタブレット型パソコンを連動表示させることで、意見発表をクラス全体で共有しやすくするなど、深い学び合いにつなげました。さらに、プロジェクタと書画カメラを連動させて、コンパスの使い方など、手本となる先生の手元を大きく映して分かりやすく説明したり、児童生徒が自分のノートを映して説明することで個々の考えや発見を全員で共有したりしました。体育の授業や部活動では、タブレット型パソコンで自分や友だちが運動する姿を動画で撮影し、動きを確認することで技能向上につなげている取り組みもありました。その他、コンピュータ教室では、キーボードの操作やインターネットを利用した調べ学習に活用するとともに、ロボット教材を使って、プログラミングの考え方を取り入れた体験型の学習を始めました。

【令和元年度の更新機器】

モデル校 児童生徒用
タブレット型 PC 792 台（3 クラスに 1 クラス分程度） （内訳）味岡小：280 台、大城小：137 台、味岡中：290 台、光ヶ丘中：85 台

中学校 普通教室・特別教室・コンピュータ教室用	小中学校 教職員用	インターホン、 防犯カメラ用
普通教室用タブレット型 PC 150 台 特別教室用タブレット型 PC 87 台 コンピュータ教室用タブレット型 PC 教員用：9 台、生徒用：360 台 生徒用タブレット型 PC 89 台（各校 10 台、篠岡中のみ 9 台）	ノート PC 48 台	デスクトップ PC 25 台

点検評価シート（令和元年度実績）

	【パソコンの配備台数】					
	区分		コンピュータ教室分	普通教室・特別教室分	校務支援等分	モデル校分
	小学校		656 台	922 台	407 台	417 台
		内 R1 年度更新	—	—	(42 台)	(417 台)
	中学校		369 台	465 台	312 台	375 台
		内 R1 年度更新	(369 台)	(326 台)	(31 台)	(375 台)
	合計		1,025 台	1,387 台	719 台	792 台
	区分		計			
	小学校		2,402 台			
		内 R1 年度更新	(459 台)			
	中学校		1,521 台			
		内 R1 年度更新	(1,101 台)			
	合計		3,923 台			
課 題	・令和元年 12 月に国が示した「GIGAスクール構想」では、当初、令和 5 年度末までに、小 1～中 3 までの全学年での 1 人 1 台端末環境の整備完了が求められていましたが、令和 2 年 4 月に新型コロナウイルス感染症対策として、整備時期の前倒し等が求められたことから、今後は、その内容を踏まえ、計画的に通信ネットワークの整備及び端末整備を進める必要があります。 ・1 人 1 台分の端末整備には多額の費用を要することから、導入する機器やソフトウェアの選定にあたっては、モデル校での検証結果等を踏まえ、費用対効果を考慮して慎重に検討する必要があります。 ・合わせて、現在のモデル校事業の今後のあり方について検討し、蓄積した経験や検証結果等の情報を効果的に他校へ波及させる必要があります。					
今後の取組の方向性	・平成 31 年 2 月に策定した「小牧市学校教育 ICT 推進計画」について、国の GIGAスクール構想に沿って、より具体的な ICT 機器の整備計画を盛り込むなどの見直しを行います。					
評価委員の意見等	・国の GIGAスクール構想の前倒しが進められるために、1 人 1 台の実現した時点を前提に、深い学びを実現してほしいです。 ・ICT 機器の整備・充実が随分進んだ印象を受けます。授業実践からの知見も蓄積されてきているようで、今後のさらなる進展に期待しています。 ・今般の新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、テレワークやオンライン学習など、社会では ICT 環境整備の必要性が今まで以					

点検評価シート（令和元年度実績）

	上に高まっています。本市は平成の早い時期から I C T機器を導入して情報教育が推進されてきました。このような社会情勢を追い風にして、プログラミング教育など幅広い教育計画の推進に期待しています。 ・教員が教えることも大切ですが、児童生徒同士でやり取りすることにより理解を深めることもあると思います。予算等の問題はあると思いますが、なるべく早く整備してほしいです。
--	--

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	学校施設の改修（施策14）	担当課
		教育総務課
内 容	老朽化・狭隘化が進んでいる小牧南小学校の改築に向け計画的に事業を進めます。平成30年度に実施した基本設計に基づき、実施設計に着手します。また、特別教室へのエアコンの設置に向けて、中学校でのエアコン設置工事の設計を実施します。	
達 成 状 況	【小牧南小学校改築】 - 平成30年度に策定した基本設計を基に、実施設計を策定しました。 - 地域住民、保護者、教員、学識経験者等で構成する「小牧南小学校改築協議会」を2回開催し、そこで様々な意見をいただき、検証しながら、可能な限り市民の意見を実施設計に反映しました。 - 設計会社と小牧南小学校教員との綿密な打ち合わせにより、学校のニーズを実施設計に反映しました。 【特別教室へのエアコン設置】 - エアコンがない中学校の特別教室へのエアコン設置工事に向けて、設計を実施しました。	
課 題	- 現在の予定では、令和2年度から小牧南小学校改築工事に着手しますが、工事が3年間にわたるため、工事期間中は、良好な教育環境の確保に努めるとともに、児童の安全確保や周辺住民への配慮にも努める必要があります。 - 特別教室へのエアコン設置工事は、学校運営への支障が最小限となるよう、可能な限り、夏休み中に集中して施工する必要があります。	
今後の取組の方向性	- 令和2・3年度に校舎と体育館を改築し、令和4年度に既存校舎と体育館の解体及び外構工事を実施します。 - 小牧南小学校改築工事は、工事期間が3年間にわたるため、工事業者と綿密に調整し、安全管理に努めます。	
評価委員の意見等	- 市民の意見も取り入れながら丁寧に設計が行われており、魅力ある校舎づくりが期待できます。 - 地域協議会が学校を拠点として活動できるよう、地域会議室を設置することとしたのは、素晴らしいことです。 - 夏の暑さは、本当に辛いと思います。なるべく早く特別教室にエアコンを設置してください。 - 夏休みの短縮が予定される中、暑さによって子どもたちが体調を崩さないか心配しています。今夏には間に合わないかもしれませ	

点検評価シート（令和元年度実績）

	んが、なるべく早く、特別教室にエアコンを設置する必要を感じます。
--	----------------------------------

基本目標 4 家庭・地域・学校との連携による教育の推進

- ☞ 家庭教育・地域教育を大切にし、地域ぐるみでの教育、子育て、青少年健全育成活動を展開します。
- ☞ 家庭・地域・学校の連携を強化し、学校運営への多様な人材の参画・協力を推進します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	教育・保育の質の向上（施策16）		担当課
			幼児教育・保育課
内 容	第一幼稚園の公開保育、小牧市幼年期教育連携推進会議を通じ幼稚園、認定こども園、保育園、小中学校の連携を推進し、幼児期からの発達段階に配慮した心の教育の充実に努めます。		
達 成 状 況	・第一幼稚園の公開保育や幼年期教育研修会を通して、幼保小中の連携を深めました。 ・互いの立場を理解し合うことで繋がりを持つ機会となりました。 ・令和2年度から始まる新しい小学校学習指導要領を踏まえ、保育者と教師の連携がなぜ必要かの理解を深め、共に学び合うことで、より連携を強化しました。		
	幼年期教育連携推進会議(2回開催)	6月 ・今年度の連携の在り方と子どもの状況について 1月 ・公開保育報告、今年度の取り組み、現状と課題	
	第1回幼年期教育研修会（講義） 『子どもが自ら考える環境について』	幼稚園14 保育園15 小中学校20 小規模園1 その他2 計52名	
	第一幼稚園公開保育 『主体的に取り組む幼児の育成』	幼稚園14 保育園24 小学校17 中学校9 その他8 計72名	
	第2回幼年期教育研修会 『①講義：心は教育できるの？ ②グループ討議及び情報交換』	幼稚園7 保育園25 こども園1 小学校18 中学校9 その他4 計64名	
	課 題	・子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を共有し、連携・協働して育んでいくために、引き続き関係機関が互いに理解を深めることが必要です。	
今後の取組の方向性	・幼稚園、認定こども園、保育園、小学校、中学校が連携することが重要です。そのためには、多くの職員が参加し、講師の招聘や事例検討を通して、子どもたちの育ちや学びについての理解を深めていくことが必要です。今後も関係機関に対し積極的に周知を行い、参加を促していきます。		

点検評価シート（令和元年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・小中学校の教員の参加が多いのはとても意義のあることです。こうした連携を続けていってほしいです。 ・研修内容と教育実践がつながるように、研修を企画運営してください。 ・幼稚園・保育園・認定こども園から小学校入学の時は、周囲に一人でも顔だけでも知っている人や、子どものことを把握してくれる人がいるだけで子どもの気持ちが落ち着くと思うので、このような連携は、とても重要なことだと思います。これからもぜひ進めてください。
----------------------------	---

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	家庭教育講演会の開催（施策１７）		担当課 学校教育課
内 容	より多くの市民が、子育てに関心を持ち、家庭教育の重要性を学ぶ機会を提供するため、家庭教育講演会を開催します。		
達 成 状 況	・落語家の桂枝女太（かつらしめた）師を招き、言葉の重みや大切さを子どもにどう伝えたらよいのかなど、言葉について考える講演会を、６月９日（日）にまなび創造館あさひホールで開催し、約１５０名が来場しました。		
	◆令和元年度家庭教育講演会アンケート結果（一部）		
	設 問	回 答	
	本日の講演会について、感想をお聞かせください。	良かった…５６％、非常によかった…２７％、ふつう…１６％、あまり良くなかった…１％	
	家庭教育について、興味のある事柄は何ですか。（複数回答）	子どものしつけ・接し方について…３５％、子どもの学習姿勢について…２２％、子どもの食生活について…１５％、子どもの発達について…１３％、健康・家庭の医学について…１３％、その他…２％	
	家庭教育を学習するために、どのような活動に参加したり、制度を利用したりしたいと思いますか。（複数回答）	講演会…４２％、公民館等で行われる市民講座…３０％、ハンドブック・アプリなどの教材…１３％、自主学習グループ・サークル…９％、相談窓口・SNS…６％	
課 題	・子育てに関する知識や関心を高め、家庭教育に活かしてもらうため、子育て中の市民に興味を持ってもらうテーマを選定する必要があります。		
今後の取組の方向性	・睡眠は、子どもの心や体の成長にとって重要です。令和２年度は、睡眠が子どもの成長にあたえる影響などをテーマに講演会を実施します。		
評 価 委 員 の 意 見 等	・より多くの市民が子育ての関心を高められるよう、充実が求められます。 ・様々なテーマで今後も実施すると思います。思春期に入る頃になると、睡眠が重要であるにも関わらず、あまり重要視せずにいる場合がよくあるので、令和２年度のテーマにも興味があります。 ・子どもだけでなく、大人にとっても良質な睡眠が大事です。子育て		

点検評価シート（令和元年度実績）

	てにエネルギーを与える大人が、エネルギー切れにならないよう、子どもにとっても大人にとっても大切なこととしての講演会になることを期待します。 ・参加者のニーズは多様化してきており、大きな規模の集客が難しい時代になっています。ターゲットを絞った小規模のものをいくつか開催する方法もご検討ください。 ・家庭教育講演会への参加可否については、家庭教育に対する関心の程度だけではなく、様々な家庭の事情もあると思います。講演会開催の意義を幅広く認識させるためにも、参加できなかった保護者への事後の対応も必要だと考えます。
--	---

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	放課後子ども総合プラン（施策18）		担当課
			こども政策課
内 容	放課後児童クラブと放課後子ども教室が連携して、共通プログラムを企画・運営する仕組みづくりを推進します。		
達 成 状 況	小牧市の実情に応じた小牧市放課後子ども総合プランの導入に向けて、総合的なあり方を検討しました。		
	回数	実施日	主な議題等
	第1回	7月24日(水)	小牧市放課後子ども総合プランについて 児童クラブ保護者負担金の見直しについて
	第2回	10月16日(水)	名古屋市トワイライトルームの視察について モデル地区の要件について
	第3回	11月12日(火)	名古屋市トワイライトルームの視察結果について モデル事業の実施内容について
	第4回	2月18日(火)	モデル事業の実施について 児童クラブ保護者負担金の見直しについて
	放課後子ども教室推進協議会の会議を開催し、放課後子ども教室の運営や放課後子ども総合プランについて、意見交換を行いました。		
課 題	会議名	実施日	出席者
	令和元年度小牧市放課後子ども教室推進協議会	2月17日(月)	学校地域コーディネーター20名
	児童クラブは、条例の基準（職員配置、施設面積等）を満たすことに最優先に取り組んだ結果、令和元年度末までに当該基準を満たすことができました。		
	- 児童クラブは、令和元年度末に条例の基準を満たしていても、児童が増加傾向にある学校については、引き続いて基準を満たせるよう必要な対応を行う必要があります。 - 放課後子ども教室は、地域住民からなるボランティアによる運営のため、週1回の開催と各校定員30人程度が限度であり、指導員の人材確保や、特別に配慮が必要な児童への対応など、より一層、学校との連携が必要です。 - 従事者、活動場所の現在の確保状況では、国が示すような、すべての児童が放課後子ども総合プランに参加できる環境とすることは困難です。事業の円滑な実施のためには、現在の従事者だけ		

点検評価シート（令和元年度実績）

	でなく、外部のボランティア、有償の講師など様々な従事者を確保することも検討する必要があります。 ・放課後子ども総合プランで提供する活動内容は、児童、従事者ともに飽きたり疲弊したりしないように工夫する必要があります。
今後の取組の方向性	・令和3年度からのモデル事業の実施に向け、放課後子ども総合プラン導入検討委員会において、モデル事業の詳細な設計などについての検討を行います。 ・モデル地区以外においても、引き続き、各教室にて児童クラブと放課後子ども教室との共通プログラムの仕組みづくりを推進していきます。
評価委員の意見等	・名古屋市への視察が行われるなど、具体的に検討が進められており評価できます。今後は、ニーズに応えられるよう、諸課題の解決を急ぐ必要があります。 ・放課後子ども総合プランの導入には多くの課題があると思いますが、できるところから着手し、修正を重ねつつ良いものにしていくという方法も選択肢の1つだと思います。 ・ボランティアの確保に努め、より内容、規模及び頻度の充実を図ってほしいです。 ・現在は、多くの学校が空き教室を利用していると思いますので、今後利用人数が増える中で、場所の確保も課題だと思います。

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	コミュニティ・スクールの推進（再掲）（施策１９）	担当課 学校教育課
内 容	地域の特性を活かしたコミュニティ・スクールの推進していくため、他自治体の先進・優良事例を紹介するコミュニティ・スクール研修会を開催し、各小中学校の学校運営協議会の活動を支援します。	
達 成 状 況	- 平成 29 年 12 月に策定した小牧市モデルのコミュニティ・スクール制度方針に基づいて、平成 30 年度に全小中学校一斉にコミュニティ・スクールを導入し、各学校に学校運営協議会を設置しました。 - 学校運営協議会の構成員は、区長、PTA、教育後援会、学校地域コーディネーター、主任児童委員、有識者などが多く、その他には、小学校では地域協議会の役員の方が、中学校では青少年健全育成や保護司の方などが委員となりました。 - 令和元年度は、各学校運営協議会で、現在の学校の取り組みや今後の地域との協働などに関して意見交換を行いました。また、学校運営協議会と地域協議会の連携を目指していることから、市内 11 小学校区で設立された地域協議会の目的や組織、活動内容を取りまとめ、本市のコミュニティ・スクール推進ガイドライン（vol.3）に掲載し、各小中学校へ周知しました。	
課 題	- コミュニティ・スクールの取り組みを進めていくためには、保護者をはじめとする地域の方々の理解と協力が必要なため、この制度の周知方法を検討する必要があります。 - 活動を推進していくため、コミュニティ・スクールに関する研修会を開催する必要がありますが、講師が限られており、日程調整が難しい状況です。	
今後の取組の方向性	- 各学校の学校運営協議会において、趣旨や目的を説明するとともに、「目指す子どもの姿」や「目指す学校の姿」を話し合い、目標やビジョンの共有を一層図っていきます。 - 各学校は、より一層地域の理解と協力を得るため、PTAや区長、民生委員、地域の方々に学校運営協議会委員への就任を依頼します。 - 令和 2 年度は、各学校の担当者を対象としたコミュニティ・スクールに関する研修会を開催するため、早い時期から講師と日程調整を行い、各学校での活動を支援していきます。 - 各学校がコミュニティ・スクールの活動を円滑に進められるように、学校と地域が活動しやすい予算のあり方について検討を進め	

点検評価シート（令和元年度実績）

	ます。
評 価 委 員 の 意 見 等	・各学校では、学校運営協議会を通して、学校と地域の関係を深めていくための活動が着実に進んでいると評価できます。また、市としてもガイドラインを示すなど、適切に学校の支援がなされていると評価できます。今後も、より一層実質的なビジョンの共有を図り、地域の児童生徒の実態にもとづいた教育課題を「目指す子どもの姿」として具体化し、教科・教科外（特活・総合など）も含めた「カリキュラム・マネジメント」を活発にし、「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組んでいくことが期待されます。 ・コミュニティ・スクールの推進には、地域協議会の協力が必要不可欠だと思います。まだ地域協議会が設立されていない小学校区においては、設立に向けて積極的に働きかけることを希望します。 ・コミュニティ・スクールの推進に関連して、長年、地域コミュニティの中核的存在であった「スポーツ振興会」についても、地域協議会が設立されたことによる今後のあり方を検討する必要があると考えます。 ・学校運営協議会が学校運営を主導するような関係性づくりが必要です。 ・イベントやプロジェクトの評価や実施など、実質的な役割を委ねることを検討してほしいです。 ・導入に向けて保護者や地域の理解・協力を推進するために必要なことは、学校現場の諸課題を明確にしたうえで、コミュニティ・スクールの導入がそれらの諸課題解決のために必要であることを具体的に説明することだと考えます。そして、既存の地域コミュニティ推進組織との連携や協力、さらには関係組織の見直しも視野に入れて考えることも必要だと思います。 ・今年度については、慌てないで、学校の状況をよく把握し、無理のないように進めてください。 ・今年度は、例年通りの活動は厳しいと思います。来年度以降につなぐ活動として、少しでも今年度できることをしていければいいと思います。

基本目標5 豊かな人生を支える、生涯学べるまちづくり

- ☞ 誰もが、学びたいときに学びたいことを学ぶことができる環境を整備します。
- ☞ 自らの学びを社会や地域に還元し役立てるようにするとともに、互いに学びあい育ちあう関係を創出します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		市民講座の実施（施策２１）		担当課 文化・スポーツ課 味岡・東部・北里市民センター	
内 容		公募により市民が主体となつて行う市民企画講座を実施するとともに、多様な分野の学習機会を提供するために、各公民館の企画による市民講座を実施します。			
達 成 状 況	【公民館企画講座】				
	公民館名 (講座数)	回数	内容		延べ 受講者数
	市公民館 (８講座)	15 回	D I Y、夫婦料理、マインドフルネス(名経大)、親子向け科学(中部大学)、講師養成、即位の礼(愛知文教大)、和菓子、オリンピック理解		354 人
	中部公民館 (２講座)	5 回	わくわく天文講座、こども天文講座(望遠鏡・星座早見盤作成)		270 人
	東部市民センター (４講座)	4 回	料理、ハンドメイドアクセサリー、ライフプラン		70 人
	味岡市民センター (３講座)	3 回	料理、美術、ライフプラン		39 人
	北里市民センター (４講座)	4 回	物の買い方、３Ｂ体操、水墨画、アロマとハーブ		48 人
	【市民企画講座】				
	公民館名 (講座数)	回数	内容		延べ 受講者数
	市公民館 (19 講座)	86 回	クラフトバンド、ミニ着物、己書、ギター、フォークダンス、登山、ヨガ、パン、アロマ、終活、漢字、歴史、織物、リコーダー、フラ、カメラ、蕎麦打ち、カラー、相続		1,995 人
	中部公民館 (３講座)	16 回	コーラス、バランスボール、笑いヨガ		549 人
	東部市民センター (８講座)	38 回	ヨガ、オカリナ、気功、終活、ファブリックデコレ、笑顔＆姿勢トレーニング、ピラティス、料理		778 人
	味岡市民センター (9 講座)	51 回	英会話、手芸、整体、ボディメイク、歌、美姿勢、ゲーム体操、料理		913 人

点検評価シート（令和元年度実績）

	<table><tr><td>北里市民センター (6 講座)</td><td>32 回</td><td>理学療法、絵手紙、歌、料理、漢字、ハーモニカ</td><td>761 人</td></tr></table>				北里市民センター (6 講座)	32 回	理学療法、絵手紙、歌、料理、漢字、ハーモニカ	761 人																																														
北里市民センター (6 講座)	32 回	理学療法、絵手紙、歌、料理、漢字、ハーモニカ	761 人																																																			
	◆市民講座年度別実績																																																					
	<table><tr><td colspan="2">項目</td><td>R1 年度</td><td>H30 年度</td><td>H29 年度</td></tr><tr><td rowspan="2">市公民館</td><td>延べ受講者数</td><td>2,349 人</td><td>2,786 人</td><td>3,255 人</td></tr><tr><td>講座数</td><td>27 講座</td><td>31 講座</td><td>32 講座</td></tr><tr><td rowspan="2">中部公民館</td><td>延べ受講者数</td><td>819 人</td><td>952 人</td><td>358 人</td></tr><tr><td>講座数</td><td>5 講座</td><td>13 講座</td><td>6 講座</td></tr><tr><td rowspan="2">東部市民センター</td><td>延べ受講者数</td><td>848 人</td><td>773 人</td><td>963 人</td></tr><tr><td>講座数</td><td>12 講座</td><td>12 講座</td><td>13 講座</td></tr><tr><td rowspan="2">味岡市民センター</td><td>延べ受講者数</td><td>952 人</td><td>729 人</td><td>1,161 人</td></tr><tr><td>講座数</td><td>12 講座</td><td>14 講座</td><td>17 講座</td></tr><tr><td rowspan="2">北里市民センター</td><td>延べ受講者数</td><td>809 人</td><td>510 人</td><td>668 人</td></tr><tr><td>講座数</td><td>10 講座</td><td>11 講座</td><td>6 講座</td></tr></table>				項目		R1 年度	H30 年度	H29 年度	市公民館	延べ受講者数	2,349 人	2,786 人	3,255 人	講座数	27 講座	31 講座	32 講座	中部公民館	延べ受講者数	819 人	952 人	358 人	講座数	5 講座	13 講座	6 講座	東部市民センター	延べ受講者数	848 人	773 人	963 人	講座数	12 講座	12 講座	13 講座	味岡市民センター	延べ受講者数	952 人	729 人	1,161 人	講座数	12 講座	14 講座	17 講座	北里市民センター	延べ受講者数	809 人	510 人	668 人	講座数	10 講座	11 講座	6 講座
項目		R1 年度	H30 年度	H29 年度																																																		
市公民館	延べ受講者数	2,349 人	2,786 人	3,255 人																																																		
	講座数	27 講座	31 講座	32 講座																																																		
中部公民館	延べ受講者数	819 人	952 人	358 人																																																		
	講座数	5 講座	13 講座	6 講座																																																		
東部市民センター	延べ受講者数	848 人	773 人	963 人																																																		
	講座数	12 講座	12 講座	13 講座																																																		
味岡市民センター	延べ受講者数	952 人	729 人	1,161 人																																																		
	講座数	12 講座	14 講座	17 講座																																																		
北里市民センター	延べ受講者数	809 人	510 人	668 人																																																		
	講座数	10 講座	11 講座	6 講座																																																		
	・ 講座申し込みを、インターネットでも申し込み可能とし、受講希望者の利便性向上に努めました。																																																					
課 題	・ 市民企画講座の運営方法など、応募する講師の不安を解消する必要があります。 ・ 受講生の年代に偏りがあり、今後、幅広い世代へ学習機会を提供していく必要があります。 ・ 市民のニーズ、時代や地域課題等に応じた、講座の提供を検討する必要があります。																																																					
今後の取組の方向性	・ 講師のスキルアップに役立つ講座の開催など、市民企画講座を実施するために必要なサポートを行います。 ・ こまき市民交流テラスと連携し、幅広い層にアプローチし、生涯学習に対する関心を高めます。 ・ 引き続き、公民館職員としてのスキルアップを目指した研修等に参加し、魅力的な講座や地域につながりを創出するための事業の実施に努めます。																																																					
評 価 委 員 の 意 見 等	・ 市民企画が社会教育の要になるため、その拡充のための取り組みを継続することが大切です。 ・ 講師を希望する人向けの研修（教室）をより充実したほうが良いのではないかと思います。 ・ 講師を希望する人が増えれば、講座数も増加し、参加がよりしやすくなると思います。講座を開きたい方向けの講座の充実を望みます。 ・ 仕方がないことかもしれませんが、平日、仕事をしていると、市																																																					

点検評価シート（令和元年度実績）

	民講座になかなか参加できないと感じています。土日限定や1日限定のものなどをもう少し増やせたら、より世代も広がるのではないかと思います。
--	---

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	男女共同参画講座の実施（施策 2 1）	担当課				
		まなび創造館				
内 容	男女共同参画に関する基本的な知識を学ぶ講座をはじめ、出産や育児を期に離職した女性に対する再就職支援や男性を対象にした家庭生活への参画を促すための講座を実施します。					
達 成 状 況	・第 3 次小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢの基本目標を基に 合計 31 講座を開催し、企業啓発講座をはじめ、講座全体の開催回数を増やしました。 ・地域の活動に活かすため、男女共同参画普及員を対象とした研修会を開催しました。 ・男女共同参画の基本的な知識を学ぶ講座をはじめ、意識向上を図るための講座、子どもの頃からの家事参加支援の講座、理系女子学生による子どもの実験・工作教室など、19 講座を開催しました。また、中学生が性別にとらわれることなく、家庭・学校・地域において男女平等の意識を高め、自分の未来について個性と能力を発揮し、自分らしく生きることを考えることを目的に、人権教育の一環として中学校出張講座を新たに 2 講座開催しました。					
	講座名	回数	定員	申込	受講者	託児
	おやデカラをみがく！ペアレンディング講座	3 回	8 組	4 組	4 組	3 人
	時事問題を知るための講座①	5 回	50 人	51 人	51 人	2 人
	時事問題を知るための講座②	予定5回 中止1回	50 人	54 人	51 人	3 人
	私たちをとりまく経済をやさしく学ぶ ～男女共同参画と経済のつながり～	3 回	20 人	21 人	21 人	1 人
	女性のための心とカラダのトリセツ～みるみる骨盤の歪みが取れる 「ちえぶら体操」～	3 回	20 人	22 人	20 人	7 人
	夏休み宿題対策教室	4 回	20 人	44 人	20 人	
	時代が求める会話力向上講座	3 回	30 人	44 人	44 人	5 人
	家事シェア入門講座	3 回	30 人	24 人	23 人	8 人
	女性の視点を活かして地域防災力 UP！	5 回	30 人	31 人	31 人	6 人
	漢詩に見る男女共同参画 ～女流漢詩人の世界～	4 回	30 人	31 人	27 人	1 人
	自分を豊かに！人間関係を楽に！ コツを学ぶコミュニケーション・カフェ	3 回	40 人	28 人	27 人	5 人

点検評価シート（令和元年度実績）

達 成 状 況	講座名	回数	定員	申込	受講者	託児
	ドラマや歌詞にみる男女共同参画基礎講座	3 回	30 人	19 人	19 人	3 人
	新聞社のデスクと考えるこれからの女性の生き方とは	1 回	30 人	19 人	16 人	2 人
	睡眠力を鍛える！スリープマネジメント講座	1 回	30 人	35 人	34 人	0 人
	私はくじけない～映画のヒロインからもらう勇気と力～	予定5回 中止1回	50 人	52 人	49 人	2 人
	夢を叶える♪ライフプランニング講座	4 回	40 人	32 人	30 人	4 人
	女性のための知って得する家庭の法律講座	4 回	30 人	20 人	20 人	2 人
	キッズラボ～わくわく大作戦～《工作編》	1 回	20 人	21 人	21 人	
	キッズラボ～わくわく大作戦～《科学実験編》	1 回	20 人	21 人	21 人	
	中学校出張講座（篠岡）	1 回			160 人	
	中学校出張講座（応時）	1 回			750 人	
	・家庭生活への参画を促すため、料理や親子で取り組むといった内容の男性支援講座を 5 講座開催しました。					
	講座名	回数	定員	申込	受講者	託児
	父と子でチャレンジ☆料理&おたのしみ講座①	2 回	8 組	11 組	8 組	0 人
	父と子でチャレンジ☆料理&おたのしみ講座②	2 回	8 組	13 組	8 組	2 人
	男を磨く！ファッション&コミュニケーション講座（秋・冬編）	1 回	20 人	9 人	9 人	0 人
	男を磨く！ファッション&コミュニケーション講座（春・夏編）	1 回	20 人	11 人	11 人	0 人
	簡単！時短！な料理に挑戦☆気軽に男性クッキング	5 回	20 人	12 人	12 人	0 人

点検評価シート（令和元年度実績）

- ・ひとり親家庭の自立支援や、出産や育児を期に離職した女性に対する再就職支援のための就労支援講座を 3 講座開催しました。

講座名	回数	定員	申込	受講者	託児
今からはじめよう♪親が変われば、 子が変わる～親・子の片づけインス トラクターになるために～	3 回	20 人	21 人	21 人	8 人
ママたちの井戸端会議 in 小牧市 ワークショップ	1 回	15 人	9 人	9 人	5 人
ママたちの井戸端会議 in 小牧市 勉強会	1 回	15 人	9 人	9 人	6 人

- ・経営者、人事担当者、管理職、一般社員を対象に、メンタルヘルス
及びアンガーマネジメントに対する理解や知識を深めることで、健
全な職場の環境づくりを目指すための企業啓発講座を 2 講座開催
しました。

講座名	回数	定員	申込	受講者	託児
職場のメンタルヘルスをみんなで 考えよう	1 回	50 人	50 人	50 人	
怒りの連鎖を断ち切る！アンガー マネジメント講座	1 回	50 人	64 人	64 人	2 人

◆男女共同参画講座等年度別実績

項目			R1 年度	H30 年度	H29 年度
男 女 共 同 参 画 講 座		延べ受講者数	男性	173 人	114 人
			女性	406 人	245 人
		講座数		20 講座	13 講座
	男性支援講座	延べ受講者数	男性	48 人	81 人
			女性	0 人	0 人
		講座数		5 講座	6 講座
	就労支援講座	延べ受講者数	男性	0 人	0 人
			女性	39 人	71 人
		講座数		3 講座	3 講座
	企業啓発講座	延べ受講者数	男性	58 人	41 人
			女性	56 人	14 人
		講座数		2 講座	1 講座
中学校出張講座	受講者数		910 人		
	講座数		2 講座		

点検評価シート（令和元年度実績）

	◆男女共同参画普及員の配置状況			
	項目	R1 年度	H30 年度	H29 年度
	配置区	29 区	28 区	30 区
	男性	26 人	25 人	28 人
	女性	24 人	24 人	24 人
課 題	・申込率は高く、多くの受講者に男女共同参画について啓発を行うことができた一方、サークル活動につなげることができなかったため、来年度の講座内容について検討を行います。 ・地域や家庭に男女共同参画意識の普及・啓発のため、各区に男女共同参画普及員の設置をお願いしているが、設置区数が増えていないため、登録した普及員のみでの研修会開催方法を見直します。			
今後の取組の方向性	・新たな受講者獲得のため、土日や夜間の講座、親子限定から祖父母と孫でも参加可能な講座、中学校出張講座や夏休み期間の子どもを対象とした講座を検討します。 ・サークル活動へつなげられる講座（防災講座等）を検討します。 ・男女共同参画普及員の設置区数を増やすため、現在活動している区を参考モデルとして紹介したり、設置のない区に出向いて設置を促していきます。			
評価委員の意見等	・男女共同参画社会の実現に向けて、若い世代への啓発と企業への啓発は非常に重要なテーマです。その意味で、中学校出張講座の新規実施と企業啓発講座の受講者拡大はとても評価ができます。 ・様々な取り組みがなされている点で評価できますが、講座を実施したことが女性に対する再就職や、男性を対象とした家庭生活への参画という目的の達成に、どの程度寄与しているかを評価する必要があります。受講者獲得という目標が自己目的化しないよう留意が必要です。 ・防災の意識を高めることは必要だと思いますので、今後実施するといいと思います。それと同時に、正直なところ、まだ「男女共同参画」の意識は低いとも思います。さらに啓発が必要だと思います。			

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	団体等による自主展示・発表活動への支援 (施策 2 2)	担当課 文化・スポーツ課 味岡・東部・北里市民センター		
内 容	利用団体等に展示スペース等の利用の機会を提供し、展示や公演等の発表活動を支援します。			
達 成 状 況	・各公民館で活動する団体に対し、積極的に声掛けをするとともに、ホームページ等で作品展示の様子を広く発信するなど、日ごろの活動の成果を発表するための機会として活用を促しました。			
	◆ロビー展示年度別実績			
	公民館名	R1 年度	H30 年度	H29 年度
	市公民館	10 団体	10 団体	4 団体
	中部公民館	12 団体	12 団体	8 団体
	東部市民センター	10 団体	4 団体	11 団体
	味岡市民センター	19 団体	27 団体	24 団体
	北里市民センター	13 団体	15 団体	13 団体
	◆ロビー公演年度別実績			
	公民館名	R1 年度	H30 年度	H29 年度
市公民館	8 公演	8 公演	9 公演	
東部市民センター	5 公演	4 公演	7 公演	
味岡市民センター	19 公演	24 公演	26 公演	
北里市民センター	10 公演	10 公演	10 公演	
課 題	・学びの成果を発表する機会として、施設のロビーや展示場を気軽に利用してもらい、さらに意欲的な活動につなげてもらう必要があります。			
	・多くの地域住民に、ロビー展示や発表会に足を運んでもらえるよう、積極的な情報発信を行う必要があります。			
今後の取組 の 方 向 性	・団体等の展示や発表のサポートに努めるとともに、団体間のつながりを通して、相互に高め合っていく体制づくりに取り組みます。			
	・文化団体や生涯学習団体の発表活動の様子を SNS などを活用して積極的に P R していきます。			
評 価 委 員 の 意 見 等	・自主展示・公演がさらに充実するような取り組みが求められます。			
	・小牧市は、各所に発表スペースがあり、とても良いと思います。今後も幅広い利用・交流の場となることを期待します。			
	・ロビー展示・ロビー公演とも、年度により多少増減はありますが、しっかり市民に根付いた催しになってきており、これまでの努力が実を結んできていることが伺えます。			

点検評価シート（令和元年度実績）

	・様々な事情があるかとは思いますが、小中学校の部活動や地域の子どもが行っているサークル・クラブなどの発表などもさらに活発になると、足を運んでもらう機会は増加すると思います。 ・団体等による発表の場として「市民ギャラリー」の活用も期待されます。
--	---

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	新図書館の建設（施策２３）	担当課
		新図書館建設推進室 図書館
内 容	令和２年度末の開館を目指し、令和元年度から建設工事を行います。また、建設工事と並行して、新図書館用のシステム構築や書籍の購入を進めます。	
達 成 状 況	・ 建設工事の入札手続きを進め、議決を経て、７月４日付けで建築工事、電気設備工事、機械設備工事の各落札業者と契約を締結しました。 ・ 工事説明会を開催後、７月中旬から工事を開始し、当初設定した令和元年度出来高の完工を達成しました。 ・ 新図書館用のシステム構築業者と契約締結後、新図書館の開館に向けた機器調達及びシステム構築について随時打合せを行い、来年度の発注に向けた準備を整えました。 ・ 新図書館用に購入する資料のうち、令和元年度に購入予定の約15,000冊の図書について、計画通り選書作業、発注作業を完了しました。	
課 題	・ 令和３年３月末の開館に向けた各種準備を行う必要があります。 ・ 市民にとって居心地の良い空間の創出や利便性の高いＩＣＴ化に対応した図書館とする必要があります。 ・ 新図書館が本市の中央館としてふさわしいサービスの提案をしていく必要があります。	
今後の取組の方向性	・ 令和２年１２月末の建設工事完工、令和３年３月末の開館に向け、工事に遅れが生じないように引き続き工事を進めます。 ・ 新図書館の開館までの間に、新図書館用の書棚や家具といった各種備品類の購入や新図書館のＩＣＴ化に対応した新しい図書館システムの構築、新図書館用の図書購入（令和２年度分）などを行います。 ・ 新図書館のサービス計画を策定していきます。	
評価委員の意見等	・ 新図書館が、市民が主体となる新たな文化の発信と交流の場となることが期待されます。 ・ 順調に工事が進んでいるとの報告に安堵しています。３月末の開館が楽しみです。市民に親しまれ、誇りに思える新しい図書館の完成を待っています。 ・ 新しい図書館を楽しみにしています。 ・ 感染症予防の観点も含めながら計画を進めてください。 ・ 新図書館の建設が計画通り着実に進んでいることが伺えます。引き続き着実な進捗管理を行ってください。	

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	生涯学習情報誌の充実（施策２４）		担当課 文化・スポーツ課
内 容	多様な生涯学習情報を、広く、わかりやすく発信するために、こまき市民文化財団と協力して生涯学習情報誌の充実を図ります。		
達 成 状 況	・文化、芸術に関する情報誌「こまぶん」と市民講座やサークル活動などの学びに関する生涯学習情報誌「こまなび」を発行し、多様な生涯学習情報の発信に努めました。		
	情報誌名	発行月	発行部数
	こまぶん	7、11、3月	各 10,000 部
	こまなび	4、9月	4月 56,500 部、9月 57,000 部 (全戸配布)
課 題	・生涯学習情報誌だけでなく、目的・対象に応じた媒体を利用し、情報発信をしていく必要があります。		
今後の取組 の 方 向 性	・読者の興味をひく記事や地域の情報などを掲載し、生涯学習や文化を身近に感じてもらうための工夫をします。 ・チラシやフェイスブック、ホームページなど、それぞれの特性に応じた情報発信に努め、学びや文化に触れるきっかけづくりに努めます。		
評 価 委 員 の 意 見 等	・見やすくわかりやすい紙面で親しみが感じられます。新型コロナウイルスの影響によるイベント中止が増えていますが、市民を元気づけようとしている様子が、フェイスブックから伝わってきます。 ・情報誌だけだと、一度目を通して終わってしまう場合が結構あるので、SNSをさらに活用すると、きっかけづくりとしてより良いのではと思います。 ・「こまぶん」も 1 万部といわず、全戸配布にすると良いと思います。 ・生涯学習全般に関連する意見になりますが、小牧の生涯学習の一層の推進のために、「こまき市民文化財団」や「こまなびサロン」に関する情報を今まで以上に広く市民にアピールすることが大切だと思います。また、今後のこととして、「こまぶん」や「こまなび」を合本することを考える必要があると思います。 ・「こまぶん」と「こまなび」を合本すると良いと思います。その上で全戸配布にすると、情報の周知につながると思います。		

基本目標6 誰もが参加できるスポーツ活動の展開

- 🏆 運動やスポーツを通して、あらゆる活動の土台となる基礎体力を育みます。
- 🏆 生涯にわたって誰もがスポーツを楽しむことができる機会や環境をつくります。

具体的な取組
(教育振興基本計画の施策番号)

多くの人が気軽に健康づくりを目的として楽しめるウォーキングの普及（施策２５）

担当課
文化・スポーツ課

内 容

健康づくりの一環として、スマートフォン用アプリ「a l k o」の普及を目的としてバーチャルウォーキング大会を開催します。あわせて、効果的なウォーキングの情報提供やノルディックウォークの講習会を行うことにより、スポーツ活動の促進を目指します。

達 成 状 況

・ウォーキングアプリ「a l k o」を活用して、日ごろの歩数に応じて参加者を４段階にランク分けし、各ランク別に設けられたコースの踏破を目指す大会を開催しました。

・ウォーキングアプリ「a l k o」では、バーチャルウォーキング大会の他に、様々なチャレンジを開催しており、一概に大会開催の成果とは言えませんが、ダウンロード者数（大会開催時点）は平成３０年度の６,８６３人から、令和元年度は９,２８４人に増加しました。

開催日	11月１日（金）～11月30日（土）														
コース	①ゴールド 約286km（1日当たり 約12,800歩） ②シルバー 約174km（1日当たり 約7,800歩） ③ブロンズ 約123km（1日当たり 約5,500歩） ④ノーマル 約70km（1日当たり 約3,100歩）														
参加者数	1,710人（H30年度参加者数：1,625人）														
達成者数	1,135人（H30年度達成者数：1,167人）														

年代別・男女別集計（参加者割合）																(%)
コース	ゴールド			シルバー			ブロンズ			ノーマル			総計			
男女別	男	女	-	男	女	-	男	女	-	男	女	-	男	女	-	
19歳以下	0.0	0.0	0.0	1.7	0.3	0.0	0.2	1.0	0.0	1.6	0.8	0.0	0.9	0.6	0.0	
20歳代	1.4	0.4	0.0	1.1	2.3	1.1	3.1	4.9	0.3	2.2	3.6	0.2	2.2	3.2	0.4	
30歳代	5.3	1.8	0.7	7.4	3.7	0.9	4.4	6.1	1.0	5.4	9.4	3.0	5.4	5.8	1.5	
40歳代	14.0	8.8	1.1	13.7	10.3	1.7	12.1	14.0	1.0	7.0	16.9	3.4	11.2	13.2	1.9	
50歳代	18.9	8.8	2.1	12.8	8.3	2.3	10.3	11.4	1.6	6.8	13.9	1.8	11.2	11.1	1.9	
60歳代	14.7	5.3	1.8	10.8	9.1	1.1	6.5	8.0	2.1	4.6	5.4	0.2	8.2	7.0	1.3	
70歳以上	8.8	2.5	1.1	5.1	3.1	0.6	2.6	3.1	0.5	3.4	3.2	0.8	4.4	3.0	0.7	
非公開	0.7	1.4	0.7	0.3	2.0	0.3	1.6	3.7	0.3	1.6	4.2	0.8	1.2	3.1	0.5	
合計	63.9	28.8	7.4	53.0	39.0	8.0	40.7	52.3	7.0	32.5	57.4	10.2	44.7	47.1	8.2	
参加人数	285人			351人			572人			502人			1710人			

●割合の算出方法（各ランク）：（ランクごとの男性（女性）の参加者/コース全体の参加者）＊１００
●「-」は性別で「選択しない」を選んだ方。

点検評価シート（令和元年度実績）

	・10月にノルディックウォーク講習会を開催し、合わせてバーチャルウォーキング大会のPRを行いました。 【ノルディックウォーク講習会】 <table><tr><th rowspan="2">項目</th><th colspan="2">R1 年度</th><th colspan="2">H30 年度</th></tr><tr><th>6/1（土）</th><th>10/5（土）</th><th>4/21（土）</th><th>10/6（土）</th></tr><tr><td>参加人数</td><td>21 人</td><td>18 人</td><td>24 人</td><td>22 人</td></tr></table>	項目	R1 年度		H30 年度		6/1（土）	10/5（土）	4/21（土）	10/6（土）	参加人数	21 人	18 人	24 人	22 人
項目	R1 年度		H30 年度												
	6/1（土）	10/5（土）	4/21（土）	10/6（土）											
参加人数	21 人	18 人	24 人	22 人											
課 題	・本市の市民意向調査（平成 30 年）では、市民の週 1 回以上のスポーツ実施率は全体平均で 46.4%という結果となっています。年代別でみると、40 歳代の実施率は 34.1%と平均を下回っていますが、バーチャルウォーキング大会の参加者は、40 歳代の参加率が高くなっていることから、今後もこれらの世代に向けて、大会への参加を促すよう工夫する必要があります。 ・ノルディックウォーク講習会の参加者は減少傾向にあります。														
今後の取組 の 方 向 性	・健康づくりの一環として、より多くの市民が生活の中でスポーツを楽しめる機会の提供として「a l k o」が活用されるよう、バーチャルウォーキング大会を引き続き開催するとともに、効果的なウォーキングの普及に取り組みます。 ・ノルディックウォークは、ポールを使った全身運動に加え、腰やひざへの負担も軽減できることから、バーチャルウォーキング大会参加者に対して、一層の普及に取り組む必要があります。														
評 価 委 員 の 意 見 等	・ポストコロナ、ウィズコロナの「新しい生活様式」の先駆けとなるような大会運営であり、参加者も増えてきています。令和 2 年度もさらに参加者が増えることを期待したいです。 ・今年の新型コロナウイルス感染症の影響もあり、大人数でまとまって行うより、「a l k o」のようなものを使ってウォーキングをすることは良いと思います。 ・「a l k o」のダウンロード数が伸びているのは、的確に市民の「忙しいけれどスポーツがしたい」という需要に応えていることの証左だと推察できます。引き続きの実施を希望します。 ・「a l k o」の存在の周知や、使用方法を知らせる発信などに取り組んでください。 ・「ノルディックウォーク」というものを知らない人がまだまだ多いと思うので、認知度を上げることが必要です。 ・新しい生活様式を参考にしつつになりますが、バーチャルウォーキングからノルディックウォーキングに移行できるような発信ができると良いと思います。 ・施策 2 5 と施策 2 6 などに通じての意見になりますが、市民の健康増進と体力向上は、一体的に捉える必要があります。そのために														

点検評価シート（令和元年度実績）

	は、教育委員会事務局と健康・福祉部局との横断的な連携が不可欠であり、太いパイプでのつながりを期待します。スポーツ協会、保健センター、まなび創造館、学校などが、それぞれの立場で計画した内容を総合的に考えることができるような体制が必要だと感じています。
--	---

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	親子スポーツ教室の開催（施策26）	担当課																																		
		文化・スポーツ課 まなび創造館																																		
内 容	親と子がふれあってスポーツの楽しさに触れることなどにより、親子のスポーツを通じた健康づくりの機会を提供します。																																			
達 成 状 況	・よちよち歩きができる子から4歳未満までとその保護者を対象に、親と子または友達同士で体を動かす運動の楽しさを通じた健康づくりの機会の提供として、親子ふれあい体操教室をパークアリーナ小牧で開催しました。 ・教室の周知については、ホームページに掲載したほか、チラシを作成し、保健センターや子育て世代包括支援センターに設置しました。																																			
	<table><tr><td colspan="2">講座名</td><td>回数</td><td>定員</td><td>応募者</td><td>受講者</td></tr><tr><td>第Ⅰ期親子ふれあい体操教室</td><td>火・AM</td><td>8回</td><td>40組</td><td>29組</td><td>27組</td></tr><tr><td>第Ⅱ期親子ふれあい体操教室</td><td>火・AM</td><td>8回</td><td>40組</td><td>42組</td><td>42組</td></tr><tr><td>第Ⅲ期親子ふれあい体操教室</td><td>火・AM</td><td>8回</td><td>40組</td><td>50組</td><td>40組</td></tr><tr><td>第Ⅳ期親子ふれあい体操教室</td><td>火・AM</td><td>予定8回 中止2回</td><td>40組</td><td>54組</td><td>39組</td></tr></table>						講座名		回数	定員	応募者	受講者	第Ⅰ期親子ふれあい体操教室	火・AM	8回	40組	29組	27組	第Ⅱ期親子ふれあい体操教室	火・AM	8回	40組	42組	42組	第Ⅲ期親子ふれあい体操教室	火・AM	8回	40組	50組	40組	第Ⅳ期親子ふれあい体操教室	火・AM	予定8回 中止2回	40組	54組	39組
	講座名		回数	定員	応募者	受講者																														
	第Ⅰ期親子ふれあい体操教室	火・AM	8回	40組	29組	27組																														
	第Ⅱ期親子ふれあい体操教室	火・AM	8回	40組	42組	42組																														
	第Ⅲ期親子ふれあい体操教室	火・AM	8回	40組	50組	40組																														
	第Ⅳ期親子ふれあい体操教室	火・AM	予定8回 中止2回	40組	54組	39組																														
	※Ⅰ期のみ、日程の都合上、南スポーツセンターで行いました。																																			
	・2歳から3歳までの未就園児とその保護者を対象に、基礎体力の向上、リズム感、協調性、集中力を身に付けさせるとともに、楽しみながら親子のふれあいとコミュニケーションを図るため、親子リズム遊び教室を開催しました。																																			
	<table><tr><td colspan="2">講座名</td><td>回数</td><td>定員</td><td>応募者</td><td>受講者</td></tr><tr><td>第Ⅰ期親子リズム遊び教室</td><td>日・AM</td><td>6回</td><td>20組</td><td>13組</td><td>12組</td></tr><tr><td>第Ⅱ期親子リズム遊び教室</td><td>月・AM</td><td>予定6回 中止2回</td><td>20組</td><td>21組</td><td>18組</td></tr></table>						講座名		回数	定員	応募者	受講者	第Ⅰ期親子リズム遊び教室	日・AM	6回	20組	13組	12組	第Ⅱ期親子リズム遊び教室	月・AM	予定6回 中止2回	20組	21組	18組												
講座名		回数	定員	応募者	受講者																															
第Ⅰ期親子リズム遊び教室	日・AM	6回	20組	13組	12組																															
第Ⅱ期親子リズム遊び教室	月・AM	予定6回 中止2回	20組	21組	18組																															
・3歳から6歳までの未就学児とその保護者を対象に、親子がリズムに乗りながら歌を歌い、身近な道具を使って親や友達と触れ合いながら体操することにより、体を動かす運動の楽しさを感じてもらうため、親子わくわく体操教室を開催しました。																																				

点検評価シート（令和元年度実績）

	<table><tr><th colspan="2">講座名</th><th>回数</th><th>定員</th><th>応募者</th><th>受講者</th></tr><tr><td>第Ⅰ期親子わくわく体操教室</td><td>木・PM</td><td>6回</td><td>20組</td><td>12組</td><td>12組</td></tr><tr><td>第Ⅱ期親子わくわく体操教室</td><td>木・PM</td><td>6回</td><td>20組</td><td>16組</td><td>16組</td></tr><tr><td>第Ⅲ期親子わくわく体操教室</td><td>土・AM</td><td>6回</td><td>20組</td><td>21組</td><td>20組</td></tr></table> ・5歳から小学1年生とその保護者を対象に、子どもがスポーツを始める機会づくりの一環として、親子サッカー教室を開催しました。 <table><tr><th colspan="2">講座名</th><th>回数</th><th>定員</th><th>応募者</th><th>受講者</th></tr><tr><td>第Ⅰ期親子サッカー教室</td><td>土・AM</td><td>6回</td><td>20組</td><td>11組</td><td>11組</td></tr><tr><td>第Ⅱ期親子サッカー教室</td><td>土・AM</td><td>6回</td><td>20組</td><td>18組</td><td>17組</td></tr><tr><td>第Ⅲ期親子サッカー教室</td><td>土・AM</td><td>6回</td><td>20組</td><td>22組</td><td>19組</td></tr></table> ・4歳から小学1年生とその保護者を対象に、子どもがスポーツを始める機会づくりの一環として、親子テニス教室を開催しました。 <table><tr><th colspan="2">講座名</th><th>回数</th><th>定員</th><th>応募者</th><th>受講者</th></tr><tr><td>第Ⅰ期親子テニス教室</td><td>日・PM</td><td>6回</td><td>10組</td><td>28組</td><td>10組</td></tr><tr><td>第Ⅱ期親子テニス教室</td><td>日・PM</td><td>6回</td><td>10組</td><td>26組</td><td>10組</td></tr><tr><td>第Ⅲ期親子テニス教室</td><td>日・PM</td><td>予定6回 中止3回</td><td>10組</td><td>39組</td><td>10組</td></tr></table>	講座名		回数	定員	応募者	受講者	第Ⅰ期親子わくわく体操教室	木・PM	6回	20組	12組	12組	第Ⅱ期親子わくわく体操教室	木・PM	6回	20組	16組	16組	第Ⅲ期親子わくわく体操教室	土・AM	6回	20組	21組	20組	講座名		回数	定員	応募者	受講者	第Ⅰ期親子サッカー教室	土・AM	6回	20組	11組	11組	第Ⅱ期親子サッカー教室	土・AM	6回	20組	18組	17組	第Ⅲ期親子サッカー教室	土・AM	6回	20組	22組	19組	講座名		回数	定員	応募者	受講者	第Ⅰ期親子テニス教室	日・PM	6回	10組	28組	10組	第Ⅱ期親子テニス教室	日・PM	6回	10組	26組	10組	第Ⅲ期親子テニス教室	日・PM	予定6回 中止3回	10組	39組	10組
	講座名		回数	定員	応募者	受講者																																																																			
	第Ⅰ期親子わくわく体操教室	木・PM	6回	20組	12組	12組																																																																			
	第Ⅱ期親子わくわく体操教室	木・PM	6回	20組	16組	16組																																																																			
	第Ⅲ期親子わくわく体操教室	土・AM	6回	20組	21組	20組																																																																			
	講座名		回数	定員	応募者	受講者																																																																			
	第Ⅰ期親子サッカー教室	土・AM	6回	20組	11組	11組																																																																			
	第Ⅱ期親子サッカー教室	土・AM	6回	20組	18組	17組																																																																			
	第Ⅲ期親子サッカー教室	土・AM	6回	20組	22組	19組																																																																			
	講座名		回数	定員	応募者	受講者																																																																			
第Ⅰ期親子テニス教室	日・PM	6回	10組	28組	10組																																																																				
第Ⅱ期親子テニス教室	日・PM	6回	10組	26組	10組																																																																				
第Ⅲ期親子テニス教室	日・PM	予定6回 中止3回	10組	39組	10組																																																																				
課 題	・親子ふれあい体操教室は、より多くの方が受講できるように、平成30年度から教室回数を増やしましたが、定員に対し応募が超過しています。他施設等で行っている同事業の紹介を行っていく必要があります。 ・親子わくわく体操教室、親子サッカー教室は、開催時期によって応募組数が変わるため、適切な時期を選ぶなどの工夫が必要です。 ・親子テニス教室は、応募多数のため、1日に2講座を開催するなどの検討が必要です。																																																																								
今後の取組の方向性	・週1回以上のスポーツ実施率が特に低い20歳代・30歳代の女性にとって、親子で行えるこの教室は、運動に取り組むよい機会の提供となっています。今後も、受講を希望する親子や就学前の子どもたちがより多く参加できるよう、（公財）小牧市スポーツ協会等と連携し工夫して実施していきます。																																																																								

点検評価シート（令和元年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・ 前年よりも応募が増えているものもありますが、減っているものもあります。定員割れがある一方、応募が多くて倍率の高い教室もあり、需給バランスの調整が必要です。 ・ どの講座も回数を重ねるごとに応募数が増え、人気の高まりがみられます。参加された方々の口コミが広がるといいですね。 ・ どの教室も人気があり、市民のニーズに的確に応えており素晴らしいと思います。ただ、テニス教室を除けば、どの教室も第Ⅰ期はまだ多少定員に余裕があるので、第Ⅰ期は比較的に入りやすいことをアピールしても良いのではと思います。 ・ 親子で、スポーツが行えることはとても良いと思います。引き続きの実施を希望します。 ・ 募集時に、過去に受講された方の感想などを添えて募集すると良いと思います。
----------------------------	---

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	こども夢・チャレンジカップU-12事業の実施（施策27）		担当課
			文化・スポーツ課
内 容	海外クラブチームなどによる国内ジュニアサッカースクールの交流大会を、5月に小牧市スポーツ公園サッカーグラウンドで開催します。		
達 成 状 況	・こども夢・チャレンジカップU-12 2019（小牧市長杯）を開催しました。		
	チーム構成	・12歳以下の小学生によるサッカーチーム ・8人の競技者（うち1人はゴールキーパー）が試合に出場する。	
	大会形式	・10チームを2グループに分けたグループ総当たり戦を行った後、順位決定戦を行う。	
	日時	・令和元年5月4日（土） 午前11時00分～午後5時25分 ・令和元年5月5日（日） 午前8時30分～午後12時50分	
	場所	・パークアリーナ小牧 サッカーグラウンド	
	出場チーム	<参加チーム数> ・平成29年度 10チーム ・平成30年度 10チーム ・令和元年度 10チーム <令和元年度の参加チーム名> ・ACミランサッカースクール愛知 小牧校（愛知県） ・名古屋グランパスサッカースクール（愛知県） ・フェルボール愛知サッカースクール（愛知県） ・小牧JSS（小牧選抜）CK（愛知県） ・小牧JSS（小牧選抜）MT（愛知県） ・ボカ・ジュニアーズ「ラ・エスクエラ」サッカースクール（東京都） ・サントスFCサッカーアカデミージャパン（静岡県） ・コリンチャンスJAPAN（三重県・滋賀県） ・リアルマドリッド（愛知県） ・FC岐阜サッカースクール選抜（岐阜県）	

点検評価シート（令和元年度実績）

	総試合数 (1 チーム当 たり 5 試合)	・平成 29 年度 25 試合 ・平成 30 年度 22 試合 ・令和元年度 22 試合
	成績	1 位：ボカ・ジュニアーズ「ラ・エスクエラ」サッカースクール 2 位：FC 岐阜サッカースクール選抜 3 位：レアルマドリード 4 位：フェルボール愛知サッカースクール
	来場者数 (2 日間の延 べ人数)	・平成 29 年度 約 1,200 人 ・平成 30 年度 約 1,200 人 ・令和元年度 約 1,300 人
	・参加チームの交流を目的として、交流会を開催しました。	
	日時	令和元年 5 月 4 日（土） 午後 6 時～午後 7 時
	場所	パークアリーナ小牧 サブアリーナ
	参加者数	・平成 29 年度 選手約 130 人（全 10 チーム） ・平成 30 年度 選手約 130 人（全 10 チーム） ・令和元年度 選手約 130 人（全 10 チーム）
	内容	参加チームでアトラクション（①人間知恵の輪②人間カッター）を行いました。
	課 題	・海外クラブチームの参加を増やすことができず、毎年ほぼ同じチームによる参加となっています。 ・この事業は、ACミランサッカースクールが小牧に開校されたことの希少価値を地域ブランドとし、サッカーを通じたこども達の育成と小牧市の知名度の向上を目的として、小牧商工会議所が中心となり実行委員会方式で実施されています。運営費の負担を軽減するため、小牧商工会議所において協賛金を募って実施していますが、苦慮しています。
	今後の取組 の 方 向 性	・平成 26 年度より 6 回の大会を開催し、サッカーを通じたこども達の育成など、成果はあったと考えますが、小牧商工会議所において、小牧の知名度向上に対する成果や協賛金の問題などから継続開催することは困難であると判断し、実行委員会で大会終了が承認されたことから、市としてもこの事業を終了することとしました。
評 価 委 員 の 意 見 等	・特にありません。	

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	スポーツ情報の提供（施策２８）	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	スポーツ施設のパンフレット、パークアリーナ小牧のホームページ及び（公財）小牧市スポーツ協会のホームページをリニューアルすることにより、スポーツ活動に向けた情報提供の充実を図ります。	
達 成 状 況	【パンフレット】 ・他市のパンフレットを参考にし、市内スポーツ施設の概要を分かりやすくまとめた構成のパンフレットを作成しました。 【ホームページ】 ・スマートフォン対応や、大会・各種イベントの申込みがホームページのフォームからできるような機能を有した、より利便性の高いホームページを作成しました。	
課 題	・市や（公財）小牧市スポーツ協会及びその加盟団体が行う各種スポーツ大会や教室などの情報を発信していく必要があります。	
今後の取組の方向性	・ホームページについては、情報発信の更新頻度やスピードを上げるとともに、写真なども多用することにより、見やすく分かりやすい情報の提供に努めます。 ・SNSを活用し、幅広い世代がホームページにアクセスしていただけるよう努めます。 ・リニューアルした（公財）小牧市スポーツ協会及びパークアリーナ小牧のホームページと市ホームページとの連携（リンク）も行い、スポーツ情報の集約を図ります。	
評価委員の意見等	・ホームページをリニューアルされたとのこと、益々の積極的な情報発信を期待しています。 ・何度か、パークアリーナとスポーツ協会のホームページを見たことがありますが、正直なところ、魅力のあるものではないと思いました。新しいホームページに期待します。 ・パークアリーナ小牧、小牧市スポーツ協会のホームページは、リニューアルされてとても見やすくなりました。市のホームページとの連携を希望します。	

基本目標 7 市民がともにつくる文化・芸術の振興

- ☞ 文化・芸術の鑑賞機会を充実するとともに、市民の創作活動を支援します。
- ☞ 市民と様々な文化団体との連携により、文化振興活動を支える体制を整備します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	身近で良質な鑑賞機会の充実（施策29）	担当課 文化・スポーツ課												
内 容	こまき市民文化財団と連携し、福祉コンサートやこまぶんフェスタなどの実施により、広く市民に良質な鑑賞機会を提供します。													
達 成 状 況	・障がいのある方や小さなお子様がいるご家庭など、普段コンサートに足を運ぶことが難しい方でも気兼ねなく、安心して楽しめるコンサートとして福祉コンサート（バリアフリーコンサート）を開催しました。 ・名古屋芸術大学と連携し、 気軽に参加できるワークショップからプロのコンサートまで、いろいろな形で「音楽」に触れて、学んで、楽しめる祭典として、こまぶんフェスタを開催しました。 【福祉コンサート（バリアフリーコンサート）】 <table><tr><td>公演日</td><td>12月7日（土）</td></tr><tr><td>会場</td><td>味岡市民センター</td></tr><tr><td>来場者数</td><td>186人</td></tr></table> 【こまぶんフェスタ】 <table><tr><td>開催日</td><td>8月25日（日）</td></tr><tr><td>会場</td><td>市公民館・市民会館</td></tr><tr><td>来場者数</td><td>延べ3,500人</td></tr></table>		公演日	12月7日（土）	会場	味岡市民センター	来場者数	186人	開催日	8月25日（日）	会場	市公民館・市民会館	来場者数	延べ3,500人
公演日	12月7日（土）													
会場	味岡市民センター													
来場者数	186人													
開催日	8月25日（日）													
会場	市公民館・市民会館													
来場者数	延べ3,500人													
課 題	・障がいの有無や家庭環境等に左右されることなく、文化に親しんでもらう環境を整備する必要があります。 ・引き続き、大学との連携を強化するとともに、こまき市民文化財団がその専門的なノウハウを継承し、様々なアプローチで来場者に文化に親しむきっかけを提供していく必要があります。													
今後の取組の方向性	・福祉や教育など多様な分野と連携し、すべての市民に文化を届ける取り組みを進めます。 ・こまぶんフェスタが、文化をツールとして幅広い世代が交流し、つながる場となるよう努めます。													

点検評価シート（令和元年度実績）

評価委員 の意見等	・こまぶんフェスタなどを通して、音楽の魅力を伝えることができると良いと思います。正直なところ、今はまだ、音楽などの文化が身近ではないと思います。 ・たくさんの人数での鑑賞は、現在の状況では難しいと思いますが、どうにか魅力の伝わるイベント等が開催できると良いと思います。
--------------	--

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	中部フィルハーモニー交響楽団の活動支援 (施策 3 1)	担当課 文化・スポーツ課		
内 容	親子向けコンサートなど様々な演奏会を共催事業として支援するとともに、こまき市民文化財団と連携して交響楽団の情報発信を行います。			
達 成 状 況	・こまき市民文化財団と演奏会に対する支援を行うとともに、市内小中学生への「オーケストラ鑑賞事業」、市内吹奏楽部への「音楽指導事業」及び地域での「ふれあいコンサート」などの事業を連携して実施しました。			
	【共催公演】			
	公演名	公演日	会場	入場者数
	第 65 回定期演奏会	5 月 12 日	市民会館	602 人
	こまき「第九」コンサート	12 月 14 日	市民会館	861 人
	第 69 回定期演奏会	2 月 15 日	市民会館	981 人
課 題	・中部フィルハーモニー交響楽団の活動基盤の充実を図る必要があります。 ・中部フィルハーモニー交響楽団の活動を市民に広く知ってもらい、音楽への関心を高めていく必要があります。			
今後の取組 の 方 向 性	・中部フィルハーモニー交響楽団の「地域に根差したトップクラスのオーケストラ」を目指した取り組みを支援します。 ・引き続き、中部フィルハーモニー交響楽団による子どもたちへの演奏鑑賞事業などを実施し、子どもたちの音楽文化への関心を高めるとともに、こまき市民文化財団と連携し、中部フィルハーモニー交響楽団への認知度の向上を図ります。			
評 価 委 員 の 意 見 等	・引き続き、市民・子どもとの交流がさらに進むことを期待します。 ・引き続きの活動支援を望みます。 ・子どもだけでなく大人でも、実際に楽器に触れてみたり、間近で音楽を聴いたりすることにより、関心は高まると思います。今までのように、演奏鑑賞などは続けていただけると良いと思います。			

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	文化財団の活動支援（施策３２）				担当課
					文化・スポーツ課
内 容	文化財団が、文化振興の推進、文化芸術の普及のため、質が高く柔軟な事業企画や、効率的・効果的な運営ができるよう支援を行います。				
達 成 状 況	・こまき市民文化財団に対して、人件費や事務費、事業費の補助及び文化事業の委託を行いました。				
	【事業実績（一部）】 学校へのアウトリーチ事業				
	内 容 （ ）内はアーティスト名	分野	訪問校	対象学年	人数
	コンテンポラリーダンスアウトリーチ （長井 江里奈 他１名）	ダンス	篠岡中学校	２年	４７人
	演劇アウトリーチ （山崎 ルキノ）	演劇	小木小学校	５年	４３人
			三ツ渕小学校	６年	５３人
	落語アウトリーチ （桂 宮治）	落語	陶小学校	６年	３５人
			大城小学校	５、６年	９２人
	サクソフォンアウトリーチ （堀江 裕介 他４名）	音楽	米野小学校	４年	１３１人
	主な公演事業				
	公演名				来場者数
	ワンコインコンサート ソプラノ＆テノール Operatic Concert in 小牧 ～スタンダードな歌曲とともに～				２２９人
	バリの影絵人形芝居 ワヤン・クリッ				延べ１８４人
	小野リサ LISA ONO Duo Delights2019				４４７人
	BIRTH ファミリーコンサート				３１０人
	愛知県芸術劇場ファミリープログラム連携公演 L o o				延べ１８１人
	こまぶんフェスタ				延べ３,５００人
	Ａ列車に乗っていこう				３２７人
	駒来落語会 立川談春独演会				１,２１７人
	東儀秀樹×古澤巖×c o b a コンサートツアー2019 TFC55 Limited Edicion				１,１８３人

点検評価シート（令和元年度実績）

	公演名	来場者数
	BS-TBS 日本名曲アルバムのJスコーラズが贈る 聴きたい!思い出の昭和歌謡名曲コンサート	317 人
	駒来落語会（落語・講談） 桂宮治 神田松之丞 二人会	352 人
	こまきアーティストシリーズ vol.1 前田陽一朗 ピアノリサイタル	467 人
課 題	・すべての市民に文化に親しんでもらうために、文化に触れるきっかけづくりを進めていく必要があります。 ・文化や学びを通して、市民の生きがいや仲間づくりにつなげていく必要があります。	
今後の取組 の 方 向 性	・鑑賞や体験を通して気軽に文化に触れてもらう機会を充実させます。 ・市民の文化活動や生涯学習の相談体制の充実を図るとともに、生涯学習等をきっかけとして、地域活動等につながる取り組みを推進します。	
評 価 委 員 の 意 見 等	・学校へのアウトリーチや魅力的な公演が行われてきましたが、新型コロナウイルスの対応による中止が相次ぐ中、新たな展開が求められます。 ・引き続きの活動支援を望みます。 ・アウトリーチをより拡充できると良いと思います。 ・公演事業のものは、今、内容を見ても、どれも見たいと思いました。これからも「見たい」と思えて、生涯学習などのきっかけになりそうなものを期待しています。	

基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承

- 郷土の歴史・文化に親しむことで、郷土への愛着や誇りを醸成します。
- 市民や関係機関と行政が協力し、郷土の歴史・文化遺産の保護、活用を進め、次世代へ継承します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	主郭地区整備基本計画の推進（施策 3 5）	担当課
		小牧山課
内 容	史跡小牧山主郭地区第 12 次発掘調査を実施します。	
達 成 状 況	- 歴史館南の大手道にあたる園路の周辺で発掘調査を行った結果、築城当時の大手道の路面と、石垣と岩盤による壁面を確認しました。また、石垣の屈曲する部分（出隅）を 1 箇所、確認しました。確認した大手道の規模や構造は、のちの信長の居城、安土城に先行する先進性が明らかになるなど、大きな成果がありました。 - 令和 2 年 2 月 22 日（土）に現地説明会を開催し、約 350 名の参加者があり、市内外の多くの方に小牧山城の歴史的価値について、情報発信することができました。	
課 題	- 発掘調査や史跡整備には多額の費用がかかるため、国庫補助金を獲得する必要があります。 - 事業の実施にあたり、史跡整備の重要性や必要性について市民に周知を図り、理解を得る必要があります。	
今後の取組の方向性	- 令和 2 年度は、主郭地区第 13 次発掘調査を行い、引き続き小牧山城の調査・研究を進めます。 - 平成 20 年度より実施している小牧山城主郭地区の発掘調査成果をもとに、今後、小牧山城主郭地区整備のための実施設計・史跡整備工事を行います。	
評価委員の意見等	- 歴史的な発見が続いており、引き続き歴史的価値の発信を充実させてほしいです。 - 現地説明会は、多くの市民に史跡整備の意義を肌で感じてもらえる絶好の機会であり、多くの市民が楽しみにしているイベントです。引き続きの開催を望みます。 - 調査研究結果は、定期的にホームページなどで発信してください。 - 定期的に情報を提供してくださっていると思いますが、歴史が苦手な人にもさらに分かりやすい情報で、史跡整備のために必要な事業であることを知らせていくことが必要だと思います。 - どのような人にも分かりやすく楽しめるホームページなどの作成を望みます。	

点検評価シート（令和元年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	資料の展示や体験・講座による啓発（施策３５）	担当課		
		文化財課		
内 容	小牧山の南東の麓にある小牧山城史跡情報館において企画展やワークショップを開催します。			
達 成 状 況	・（一財）こまき市民文化財団を指定管理者として指定し、歴史講座や企画展を行いました。			
	【れきしるこまき開館記念講座】			
	開催日	内 容	講師	受講者
	6 月 2 日	1. 最近の小牧山城について 2. クリス・グレンから見た愛知の城	1. 小野友記子 2. クリス・グレン氏	80 人
	7 月 28 日	信長の城にいどむ ～発掘かわら版でみる小牧山城の調査～	小野友記子	61 人
	10 月 6 日	信長の城造り 小牧山城から安土城へ	中井均氏	80 人
	12 月 8 日	織田信長と惟任（明智）光秀	柴裕之氏	80 人
	2 月 9 日	講談で聴く　～織田信長公～	一龍斎貞鏡氏	80 人
	【ワークショップ】			
	開催日	内 容	参加者	
	7 月 20 日	オリジナル花押缶バッジを作ろう！	52 人	
	8 月 6 日	小牧山のむしを探してみよう！	31 人	
	【甲冑試着体験】			
	開催日	参加者		
	8 月 3 日	24 人		
	8 月 11 日	39 人		

点検評価シート（令和元年度実績）

	【企画展】		
	開催期間	内容	延べ来場者数
	9月13日～11月4日	「信長のお城絵」展	8,878人
	9月23日	附随企画「信長の城ウォーク」	17人
課 題	・小牧山城の歴史や魅力を発信するため、多くの方にご来場いただける方策を検討する必要があります。		
今後の取組の方向性	・指定管理者である（一財）こまき市民文化財団において、企画展やワークショップ等を開催するとともに、（一社）小牧市観光協会とも連携して、施設のPRに努めます。 ・小牧山城主郭地区での最新の発掘調査成果の公表や企画展を開催することによって、小牧山城の歴史的価値や魅力を来場者に情報発信します。		
評価委員の意見等	・学校教育とも連携し、市民・子どもが親しみを感じられるような取り組みの充実を期待します。 ・引き続き魅力ある企画を期待しています。 ・TVメディア等を活用した発信を検討してください。 ・何かのアニメやドラマでコラボできるものがあれば、それを利用して、多くの人に来場してもらうことにつなげられるといいと思います。		